

地域社会に根ざした  
高等学校の学校間連携・協働ネットワーク構築事業  
(COREハイスクール・ネットワーク構想)

# 研究開発実施報告書

## (2年次)





# くまもと夢への架け橋ネットワーク構想

## 目的

- ・「教科・科目充実型」の遠隔授業、学校間連携の運営体制、地域との協働を通じて「多様な学びの中で、地方の資源を発掘し、活かし、伸ばす人材の育成」や、「地域の人材育成の拠点、心の拠り所として、なくてはならない高等学校」を実現する。

## 現状

- 熊本市内への人口一極集中（県民の約40%が熊本市民）
  - 地域の活力低下
  - 若年層人材の流出
- 地方で学ぶ強みを理解しながら新たな資源を発掘し、生かしたり、新たな魅力や価値を創造できる人材育成が求められている。

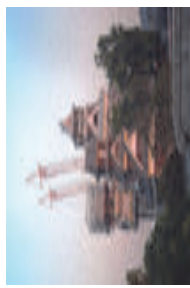


### 1. 遠隔授業に関する取組の概要

- ・第一高校（第一高校教諭、指導教諭（スーパーティーチャー））や、県立教育センター（近隣の県立高校）に配置されている指導教諭（スーパーティーチャー）を主たる配信拠点とした遠隔授業の実施
  - …習熟度授業、発展的科目、専門教科科目、実技系科目の試み等
- ・県内（熊本、阿蘇、天草、人吉球磨）を一体化した地域課題解決のための探究活動（くまモン（熊本の人）プロジェクト）の実施。KSH（熊本スーパーハイスクール）とのリンクによる、探究活動の充実。
- ・構成校を一体とした、きめ細やかな進路指導の実現

### 2. 地元自治体等の関係機関と連携・協働する体制の構築に関する取組の概要

- ・コンソーシアムと学校運営協議会を一体化した、地域の拠点としての高等学校づくり。
- ・熊本地震、令和2年7月豪雨等の経験を生かした「有事の際でも子どもたちの学びを止めない」取組（遠隔授業や地域のコンソーシアムを防災的視点からも捉える取組、連絡協議会やコンソーシアムに防災関連組織を加える試み）
  - 新たなモデルとして全国に発信する



### 3. ネットワークを構成する学校

熊本県立第一高等学校、熊本県立小国高等学校、熊本県立牛深高等学校、熊本県立球磨中央高等学校、熊本県立教育センター



# くまもと夢への架け橋ネットワーク構想



## 育成を目指す資質・能力

- ・地域課題等の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、学びの意義や価値を理解するようになる。(知識・技能)
- ・地域社会や地域の生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。(思考力・判断力・表現力等)
- ・地域課題解決に向けた取組に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

## 主なアウトプット(活動目標)

- ・遠隔授業に係る主体的・対話的で深い学びの実現を図る。
- ・4つの自治体とコンソーシアムを組織し、地域との協働を推進する。
- ・各コンソーシアムでは、年間5回の委員会を開催し、高等学校を知の拠点として、地域課題の解決に向けた取組を推進する。
- ・C I Oによる遠隔授業の研修をすべての県立高等学校が受講し、県内全域に遠隔授業の普及を図る。

## 主なアウトカム(成果目標)

- ・ネットワーク構成校の生徒の学力向上を図る。
- ・地域課題の解決に資する探究的な科目を構成校で導入し、地域の中核を担う人材を育成する(学校設定科目も創設・発信する)。
- ・構成校をモデルとして、令和5年度までに20の県立高校においてコンソーシアムを創設し、地域との協働体制の強化を図る。

## 委託期間終了後の見通し

- ・構成校を核として、遠隔授業を全県的に拡充する。その際は大規模校から配信するだけでなく、様々な高校の強みを活かして配信、受信する「相互送受信」のシステムを構築する。

## 巻頭言

文部科学省より2021年3月に全国13の教育委員会に採択された、地域社会に根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワーク構築事業、いわゆるCOREハイスクール・ネットワーク構想は2年目を終わろうとしています。令和3年度に本県CORE事業である「くまもと夢への架け橋ネットワーク構想」の目的を「教科・科目充実型」の遠隔授業、学校間連携の運営体制、地域との協働を通じて「多様な学びの中で、地方の資源を発掘し、活かし、伸ばす人材の育成」や、「地域の人材育成の拠点、心の拠り所として、なくてはならない高等学校」を実現することとして、遠隔授業や地域課題の解決に向けた探究的な学びの体制を整え、準備・試行を重ねてきました。

令和4年度は、実行・評価・改善の期間と位置づけ、本格的な遠隔授業の実施や学校間を超えて地域探究を行う「くまもプロジェクト」を実施するなど、新たな学びの場を創出してきました。遠隔授業の実施、学校間を超えた探究活動のどちらも本県では初めての試みであるため、試行錯誤の連続でした。しかし、今、一年を振り返ると、今まで見ることができなかった生徒の姿がありました。授業が始まる前に、お互いの地域の気候を確認しながら笑顔で挨拶する姿。部活動の大会前に動画を作成して応援する取組。授業が設定されていないために、本来は取得することができなかった検定試験に合格する実績。どれもCORE事業がなければ、見ることができない景色でした。

しかし、その景色の裏では、主管課である高校教育課だけではなく、様々な関係課の方々の御協力、遠隔機器の設置に取り組んでいただいた技術者の方々、指導・助言をいただいた運営指導委員の先生方、各地域のコンソーシアムの方々と各学校との連携、そして何よりも、第一高校、小国高校、牛深高校、球磨中央高校、県立教育センター、鹿本高校の指導教諭等、多くの事業に携わっていただいた方々の尽力があります。その方々の支えなしには、事業を推進することはできませんでした。心より感謝申し上げます。

まだ事業は途上であり、いよいよ来年度は事業のまとめ、拡大を目指す年になります。そして、令和6年度の熊本版COREハイスクール・ネットワーク構想の自走化に向けて、検討を重ねているところです。

本書には、今年度の取組や考察と共に、「くまもと夢への架け橋ネットワーク構想」に関わっていただいた方々の様々な成果物を掲載させていただきました。現時点での取組にはなりますが、本書をご覧いただいた皆様の参考になれば幸いです。

最後になりましたが、改めて、今年度の本事業に対して、多大なる御支援・御協力をいただきましたことに感謝申し上げますとともに、本書を御覧いただいた皆様から多くの御助言をいただけることを期待しまして、巻頭の御挨拶といたします。

令和5年3月

熊本県教育庁県立学校教育局高校教育課  
課長 前田 浩志

## もくじ

### 巻頭言

### もくじ

1.	事業概要	1
1.1.	本事業に取り組む課題と目的	
1.2.	本事業を通して明らかにしたい事項（調査研究テーマ）	
1.3.	ロードマップ	
2.	遠隔授業の実施やその運営体制に関する取組	12
2.1.	調査計画	
2.2.	実施体制	
2.3.	取組概要	
2.3.1.	遠隔授業実施表	
2.4.	取組内容	
2.5.	考察	
2.5.1.	目標設定シートに対応した成果と課題	
3.	コンソーシアム構築による教育の高度化・多様化に関する取組	40
3.1.	調査計画	
3.2.	実施体制	
3.3.	取組概要	
3.3.1.	地域と協働した取組実績	
3.4.	取組内容	
3.5.	考察	
3.5.1.	目標設定シートに対応した成果と課題	
4.	まとめ	71
5.	次年度に向けた計画概要	
5.1.	明らかにしたい事項	
5.2.	重点的に取り組む取組	
5.3.	実施体制	
6.	資料集	80
	・ 遠隔授業を行う教科・科目に関する資料	
	・ 令和5年度実施計画書（抜粋）	

## 1. 事業概要

### 1.1. 本事業に取り組む課題と目的

#### ■構想の目的等

##### (1) 本県の高等学校及び地域を取り巻く現状について

現在、本県においては熊本市内一極集中が加速化している。過去30年間に熊本市の人口は約6万人増加する一方で、熊本市以外の人口は約15万人減少した。現在は、県民の約40%が熊本市民である。このような状況は高校入試の倍率等にも現れてきており、地域の高校、ひいては県内の各地域の今後にも深刻な影響を及ぼす問題である。

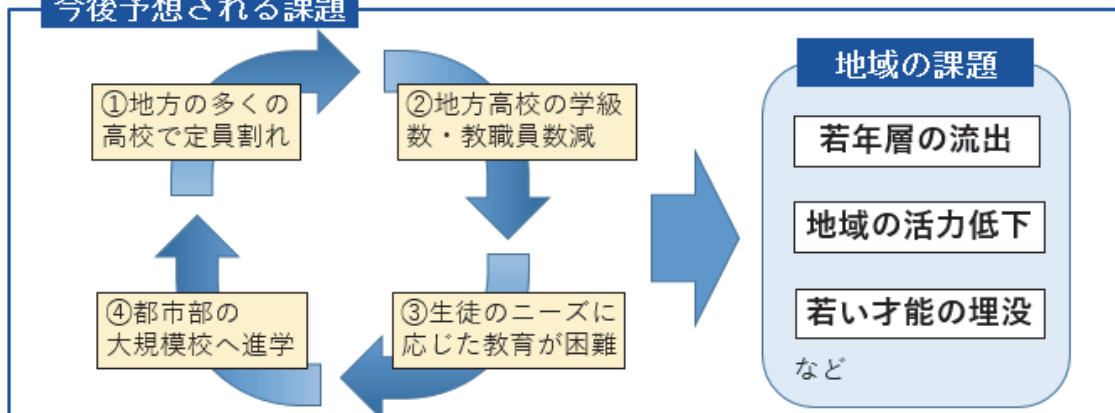
例えば、現在地方においても丁寧な進路指導が行われているが、大学進学希望者数等から、切磋琢磨する環境が整わない等の悩みを抱えている。結果的に環境を求めて熊本市内の大規模校に進学する者もいる。さらに、このような傾向が続くことによって「地元の高校から大学進学は難しい」との印象を地域に与え、ますますその傾向が加速するという連鎖が見られるケースも県内で見られる。地域の学校規模が小さくなり、結果として多様な学びが制約され、さらにそれが都市部への進学に拍車をかけるという流れがある。結果として、若年層の流出は地域の活力低下ももたらしている。

本県の地方部には様々な資源（宝）が存在する。しかしながら、これらの資源は活かされず、眠っているものも多い。新たな資源を発掘し、新たな魅力や価値を創造できる人材育成が求められている。

#### 熊本県の現状

- 県の人口に対する熊本市の人口の割合… **43%**
- 県立高校の立地が「0ないし1」である市町村の割合… **80%**
- R3入試で定員に満たなかった公立高校（全日制）の割合… **82%**

#### 今後予想される課題



**「地域の高校」として魅力化を図る必要がある**

## (2) COREネットワークによる取組の必要性

現在、本県では前述のような状況を踏まえ、「第3期熊本県教育振興基本計画」の9つの基本的方向性の1つとして「魅力ある学校づくり」を掲げ、魅力化や地域とともにある学校づくりを推進することとしているが、推進の大きな柱となるのが「ICTを活用した遠隔授業等による教育の充実」である。

今回のネットワークは熊本城に隣接する大規模校の第一高校、県北の山鹿に位置し、教員への「主体的・対話的で深い学び」の実現についての指導助言の役割も担う県立教育センターを配信拠点に、阿蘇（小国）、天草（牛深）、人吉球磨（球磨中央）の受信校で県内全域をカバーするものである。受信校はいずれも中山間地域に位置し、独自の特色を持つものの、学校規模等から開設科目や専門性に制約がある。今後、今回の構成校から県内全域にネットワークを拡充する方針である。

今回の構成校のような高等学校こそ生徒が主体的でわくわくする、多様な学びが必要である。しかし、これまで前述の状況により、なかなか実現できなかった。遠隔授業や、県一体のネットワークで行う、地域課題の解決を目指した探究活動「くまモン（熊本弁で「熊本の人」）プロジェクト」を中心とした取組で状況を打開したい。地域の高等学校で多様なことを学ぶことが、これから生きていく上で強みであることを発見し、その強みを活かす手立てを考える力は地域活性化のみならず、生徒にとってかけがえのない生きる力となる。都市部の高校への進学者の増加により、地域の高校生の自己肯定感が低下する状況を指摘する声もある中、本事業を通じて、地域の高等学校で学ぶことが誇りへとつながるような熊本の学びを実現する。構成校を「夢への架け橋高等学校（大きな学校）」として捉えることにより、地域を越えて生徒間の切磋琢磨する環境も生まれる。

本県では熊本地震を契機にすべての県立高校に学校運営協議会を導入し、全国に先駆けて地域と協働した取組を行ってきた。これまでの成果を発展させ、学校運営協議会とコンソーシアムの一体化を実現し、高等学校を中心とした地方創生も実現する。本県の課題は、いわばわが国の課題である。事業の成果は地方創生の新たなモデルとして、全国に発信していく。本県の将来を担う地域のリーダーのみならず、わが国を先導する人材育成を行っていく。

## (3) COREネットワークによる取組の目的・目標

### ア COREネットワークによる取組の目的について

前述したとおり、本事業では、「教科・科目充実型」の遠隔授業、学校間連携の運営体制、地域との協働を通じて「多様な学びの中で、地方の資源を発掘し、活かし、伸ばす人材の育成」を実現する。また、「地域の人材育成の拠点、心の拠り所として、なくてはならない高等学校」の実現にも資するものである。



## イ COREネットワークによる取組の目標について

本事業による取組の目標は以下①～⑩のとおりである。遠隔授業を通して実現する多様な学びや、地域課題解決のための探究的な活動を通して、自己の在り方・生き方を考えながら、よりよく課題を発見し、解決していくための資質能力を育みたい。

### 【資質・能力の育成】

- ①地域課題等の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、学びの意義や価値を理解するようにする。(知識・技能)
- ②地域社会や地域の生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。(思考力・判断力・表現力等)
- ③地域課題解決に向けた取組に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

### 【学校の機能強化・魅力化】

- ④総合的な探究の時間等の探究活動を中心とした教育課程の編成と、カリキュラムマネジメントの推進
- ⑤地域住民が参画する教育活動の充実
- ⑥授業改善による「主体的・対話的で深い学び」の実現

### 【具体的な取組】

- ⑦第一高校（第一高校教師、指導教諭（スーパーティーチャー））や、県立教育センター（近隣の県立高校に配置されている指導教諭（スーパーティーチャー））を主たる配信拠点とした遠隔授業の実施
- ⑧県内（熊本、阿蘇、天草、人吉球磨）を一体化した地域課題解決のための探究活動（くまモン（熊本の人）プロジェクト）の実施。KSH（熊本スーパーハイスクール）とのリンクによる、探究活動の充実。
- ⑨構成校を一体とした、きめ細やかな進路指導の実現  
地域を越えて切磋琢磨する環境作り。合同の進路講演会や学習会の実施など。
- ⑩コンソーシアムと学校運営協議会を一体化した地域の拠点としての高等学校づくり。

①～③の資質・能力の育成は、「予測困難な社会を乗り越える『生きる力』の育成」にもつながるものである。また、「地域の人材育成の拠点、心の拠り所として、なくてはならない高等学校」の実現に向けて、④～⑥を推進したい。目標の達成状況については、「魅力化アンケート」の実施等によって検証していく。

第一高校の生徒にとっても地方の生徒と交流することで多面的、多角的な視

点を身につけ、地域に貢献する人材となることが期待される。また、遠隔授業によって、教員間の交流や教材の共有の促進、更に県外の学校との積極的な交流を行うことで、授業改善や指導力向上を図りたい。また、県立教育センターは授業改善のための指導助言を行う。本事業の成果は県教育委員会等のHPや各種研修等を通して、県内各校へ普及を行う。具体的な取組の柱として特に⑦～⑩を推進する。

■くまもと夢への架け橋ネットワーク構想を構成する高等学校及び選定理由

①熊本県立第一高等学校

選定理由

学年9クラスを有し、1000名を超える生徒が在籍する大規模校である。普通科、普通科英語コースを設置している。開設科目数も多い。

ほとんどの生徒が大学を始めとした上級学校への進学を希望している。令和2年3月卒業生の進路状況は、卒業者数358人中進学者350人（大学296人、短大5人、準大学1人、専修学校等48人）である。

日頃の授業も上級学校への進学を視野に入れたものであり、学校全体に蓄積されている進学指導に関するノウハウを県全体に普及し、本県の学力向上につなげたいと考え、選定した。

②熊本県立小国高等学校

選定理由

阿蘇地方に位置し、大分県に隣接している。連携型の中高一貫校である。地域唯一の高等学校であり、地域と協働した教育活動が展開されている。生徒数が少ないため、開設教科、科目も限られている。このため、多様な学びを求めて熊本市内等の大規模校への進学を目指す者もいる。国立大学を目指す生徒の育成や、多様な学びが可能となることにより、高校の活性化がより進むのではないかと考え、構成校に選定した。

③熊本県立牛深高等学校

選定理由

本県県立高校の中で、最も熊本市内から遠隔地にある高等学校である。高校再編整備により、旧牛深高校と河浦高校を統合し発足した。総合学科の高校として、地域の生徒の多様なニーズに、地域の学校として応えられるよう多様な科目が開設されている。しかしながら、生徒数の減少や、職員数の問題等から、履修の制約が生じ、専門外の教師による指導等が課題となっている。地域の学校における多様な教科の開設の在り方を研究する目的で、構成校に選定した。

#### ④熊本県立球磨中央高等学校

##### 選定理由

人吉球磨地区の高校再編整備によって新たな学校として発足した。普通科としての「地域未来探究科」が設置され、全校生徒を対象とした「球磨地域学」や公民科の学校設定科目である「GLS（グローバル・スタディーズ）」等、地域と連携した特色ある学びを行っている。また、商業科、情報処理科ではビジネスの専門知識や技術の習得、各種検定資格を取得し、日本経済や地域社会に貢献する人材を多数輩出している。

今後、普通科を中心に探究科目で学んだ生徒が、大学進学や公務員などの幅広い進路を目指すための多様な科目が求められる。地域の総合高校として、進学対応を目的とした遠隔科目開設の調査研究を行いたいと考え、構成校に選定した。さらに、人吉球磨地方は、昨年7月の豪雨災害からの復興が喫緊の課題であり、地域の創造的復興を牽引する人材の育成が急務である。その観点からも選定した。

#### ⑤熊本県立教育センター

##### 選定理由

熊本県における教育の充実及び振興を図るための研修、調査研究の拠点として、本事業構成校に対する指導助言を行う。また、その成果の普及を行う。

さらに、遠隔授業の配信拠点の一つとして、主として指導教諭（スーパーティーチャー）の授業の配信を行い、生徒への教科指導と、教職員の指導力向上に寄与するために選定した。



## ■実施日程

月	実施内容
令和4年 4月	第1回くまもと夢への架け橋ネットワーク連絡協議会 日課・教科書・教育課程等の調整 遠隔授業開始時の状況把握 遠隔授業コーディネーター（CIO）任用手続き
5月	各高等学校コンソーシアム会議（学校運営協議会） ※第一高校、小国高校、牛深高校、球磨中央高校「 令和5年度教育課程の提出
6月	「くまモンプロジェクト」連絡協議会 「くまモンプロジェクト」事前研究会 くまもと夢への架け橋ネットワーク Classroom 作成 運営指導委員委嘱手続き
7月	第2回くまもと夢への架け橋ネットワーク連絡協議会 第1回実証地域連絡会議 令和5年度使用教科書の採択
8月	くまもと夢への架け橋ネットワーク授業担当者会
9月	遠隔会議システム調整
10月	第1回運営指導委員会 「くまモンプロジェクト」生徒中間発表会
11月	第3回くまもと夢への架け橋ネットワーク連絡協議会 第2回実証地域連絡会議 内田洋行・運営指導委員による訪問調査
12月	くまもと夢への架け橋ネットワーク成果発表会 内田洋行ヒアリング
1月	次年度開講授業準備
2月	第1回運営指導委員会 「くまモンプロジェクト」生徒中間発表会 各高等学校コンソーシアム会議（学校運営協議会） ※第一高校、小国高校、牛深高校、球磨中央高校 事業成果報告会 遠隔授業コーディネーター（CIO）再任用手続き
3月	次年度に向けた各構成校との打合せ 報告書刊行

## 1.2. 本事業を通して明らかにしたい事項（調査研究テーマ）

### ■遠隔授業

「遠隔授業に係る主体的・対話的で深い学びの実現に向けて」

1.1. で前述したように、熊本県では、地方においても丁寧な進路指導が行われているが、大学進学希望者数等から、切磋琢磨する環境が整わない等の悩みを抱えている。結果的に環境を求めて熊本市内の大規模校に進学する者もいる。

このような課題がある中で、様々な遠隔授業の形式を用いて、課題解決の手法を得たいと考えている。

熊本県では、

- ・熊本県立第一高校→小国高校・牛深高校  
（熊本市内の大規模校→地方の小規模校への配信  
\* 配信側・受信側双方で生徒が受講。）
- ・球磨中央高校→小国高校  
（地方の中規模校→地方の小規模校への配信  
\* 配信側・受信側双方で生徒が受講。）
- ・県立教育センター→球磨中央高校  
（配信センター方式）

のように、多様な配信方式で遠隔授業を実施している。

また、遠隔授業は、特定の教員だけが携わるものとするのではなく、今後の教員に求められる資質・能力の一つとして位置づけ、経験年数や経験勤務校に因らずに、体制を整えることを模索している。

遠隔授業に携わる教員を対象とした協議会等も開催し、今後、必要な手法等を県内全ての教員に周知・共有することも検討していきたい。

### ■コンソーシアム構築

「クラウドを活用した研究過程の比較・共有による探究的な学びの深化について」

熊本県の各地域課題の現状として、若年層の流出、地域の活力低下、若い才能の埋没等が挙げられており、「地域の高校」として魅力化を図る必要があると捉えている。

その課題を解決するため、本県では今年度より「くまモンプロジェクト」と名付けて地域課題解決のための探究的な学びを実施した。本県では、コンソーシアムを、互いに力を合わせて目的に達しようとする組織や人の集団と定義し、活動している。



「くまモンプロジェクト」は各学校で実施している探究的な学びを意見交換や発表会を合同で行うことで、「生きる力」の育成に繋げようとするものである。各学校と「くまモンプロジェクト」の定義を共有し、教育委員会と各学校との連絡協議会や各学校同士の連絡の中でプロジェクトを推進している。

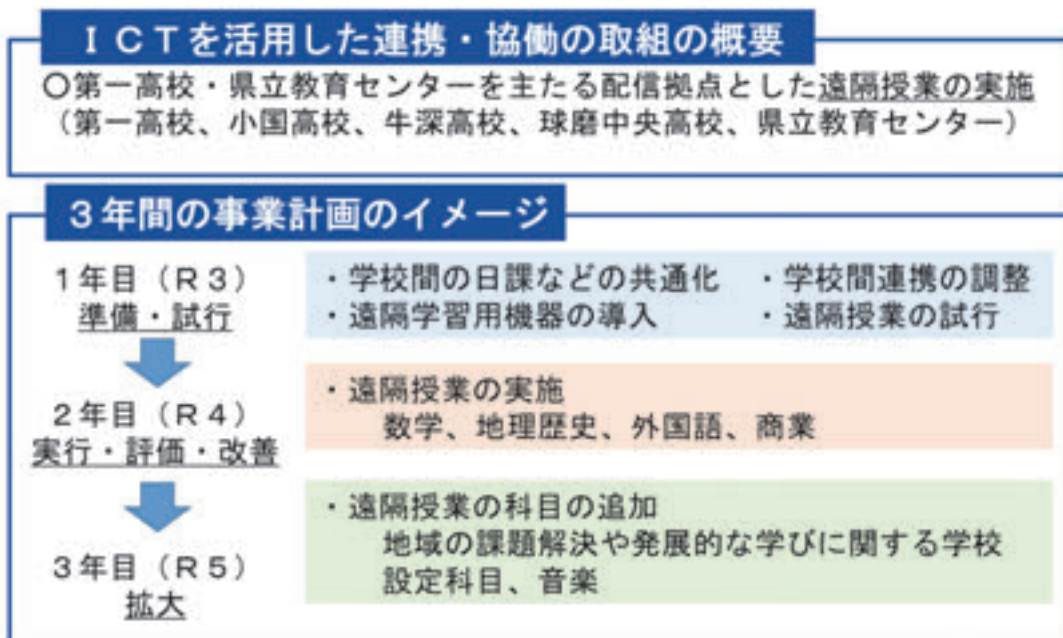
プロジェクトを立ち上げた理由として、地域の課題を解決するにあたり、自分の学校の地域については研究しているが、他地域との比較をする機会を持ちにくいために、解決事例の把握や調査がしづらいという現状がある。そのために、目的と手法を整理し、各学校と共有し、異なる学校や地域同士が連携できる学びを模索した。

手法として、過程や成果をクラウドで共有したり、相互にアンケートして研究を深めたり、コンソーシアム同士の連携も模索した。年間計画を立てて、生徒中間発表会や成果発表会を企画し、他校の生徒同士で交流しながら、活動を続けたところである。

### 1.3. ロードマップ

#### ■遠隔授業

## 事業の概要と計画（ICTの活用）



遠隔授業に係る本事業の概要と計画は、上記のとおりである。  
来年度は、以下の科目を追加する。

### ○発展英語

指導教諭による小国高等学校への配信授業。習熟度別指導を遠隔授業で実施する主な理由と位置づけ、

- ・ 難関大学志望者の育成
- ・ 生徒が切磋琢磨する環境づくり
- ・ 教員の指導力向上

を期待される効果とする。

### ○声楽

牛深高等学校から小国高等学校への配信授業。専門性の高い指導を遠隔授業で実施する主な理由と位置づけ、

- ・ 生徒の興味関心の伸長
- ・ 学校を超えた切磋琢磨する環境づくり
- ・ 実技科目における遠隔教育の研究

を期待される効果とする。

### ○グローバル・スタディーズ

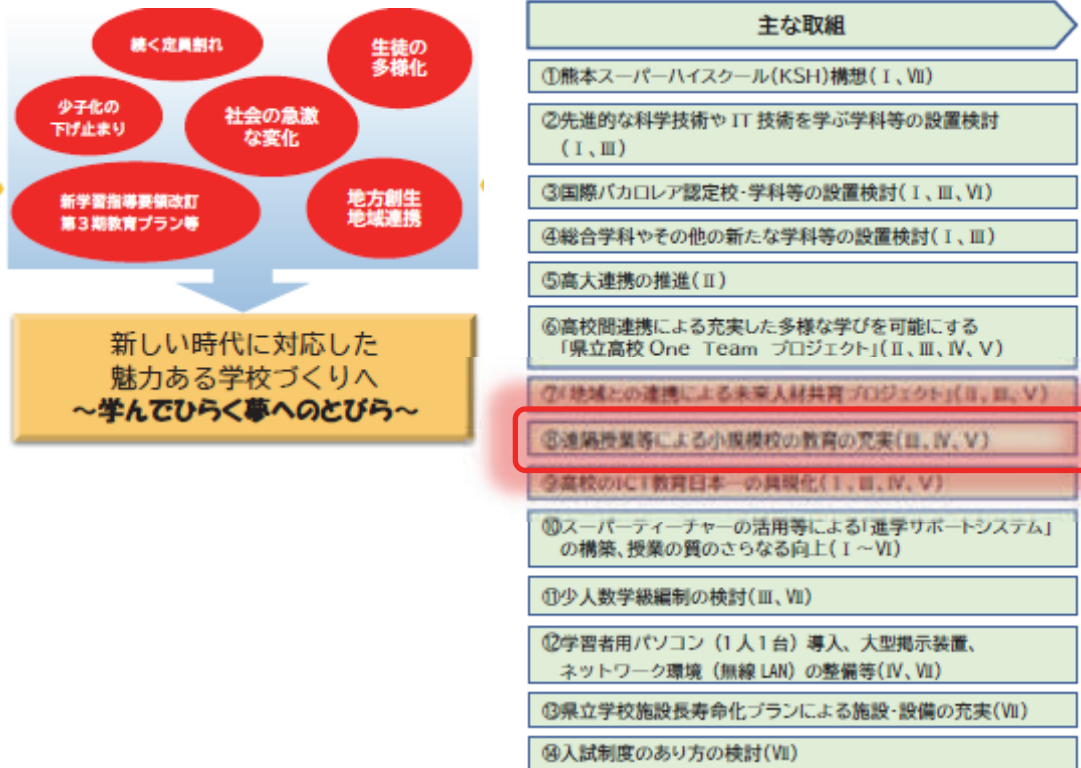
球磨中央高等学校から牛深高等学校への配信授業。多様な教科・科目の開設を遠隔授業で実施する主な理由と位置づけ、

- ・ 地域理解科目の研究開発の深化及び地域人材の育成
- ・ グローバル化や少子高齢化、社会の激しい変化の中で、地域が抱える課題の解決策の考察
- ・ 地域活性化や地域社会を維持・存続させる手掛かりの考察
- ・ 地球規模で解決が求められている国際社会の取り組みを学び、幅広いものの見方や考え方による問題解決能力の向上

を期待される効果とする。

また、令和6年度より熊本版COREハイスクール・ネットワークの構築を図り、事業終了後も取組を継続し、持続可能な地方創生の核としての高等学校の機能強化を目指すことを検討している。

熊本県教育委員会として、令和3年（2021年）3月30日に県立高等学校あり方検討会の中で、「県立高等学校のあり方と今後の方向性について～新しい時代に対応した魅力ある学校づくりへ～」という提言を行っている。その提言において、「魅力ある学校づくりに向けた14の取組」を示し、「遠隔授業等による小規模校の教育の充実」を掲げている。



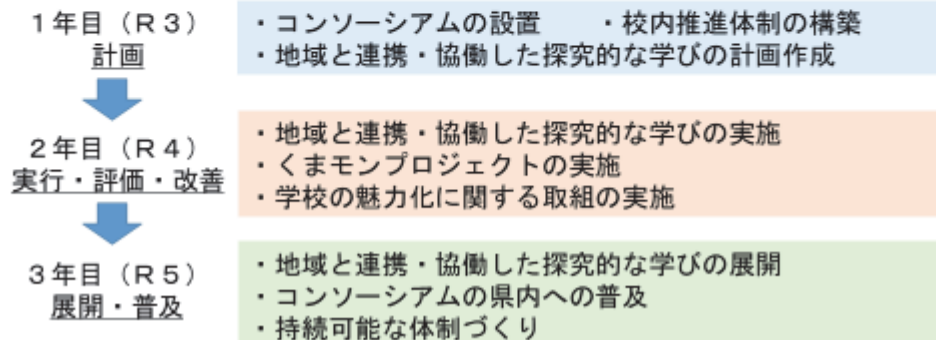
■コンソーシアム構築

事業の概要と計画（探究的な学び）

関係機関と連携・協働する体制の構築に関する取組の概要

コンソーシアムと連携・協働した、  
 ○地域の拠点としての高等学校づくり  
 ○地域の課題解決のための探究的な学びの実施

3年間の事業計画のイメージ



コンソーシアム構築に係る本事業の概要と計画は、上記のとおりである。  
来年度は、以下の取組を検討している。

○『くまモンプロジェクト』の改善を加えた実施

- ・各地域のコンソーシアムを活用した調査、研究の推進
- ・クラウドを活用し、各構成校の生徒による同テーマによる共同研究
- ・各構成校の指導と評価の一部共有化の促進
- ・調査、研究を行う際のフォームの一部共有化
- ・成果発表会の県内全域への参加周知

○『くまもと夢への架け橋ネットワーク構想成果発表会』の改善を加えた実施

- ・探究的な学びの担当者との協議及び質疑応答の時間検討
- ・熊本県の全県立高校の高校生が探究活動を発表する「熊本スーパーハイスクール（KSH）生徒研究発表会」との連携

（参考）

令和4年度（2022年度）熊本スーパーハイスクール（KSH）構想県指定校事業

・目的

令和3年（2021年）3月の県立高等学校あり方検討会からの提言に基づいて取り組んでいる魅力ある県立高校づくりの一環として、特色ある学びを推進する県立高校を支援し、その取組を広く発信する。



また、令和6年度より熊本版COREハイスクール・ネットワークにおけるコンソーシアムの連携強化に向けて、事業終了後も取組を継続し、持続可能な地方創生の核としての高等学校の機能強化を目指すことを検討している。

## 2. 遠隔授業の実施やその運営体制に関する取組

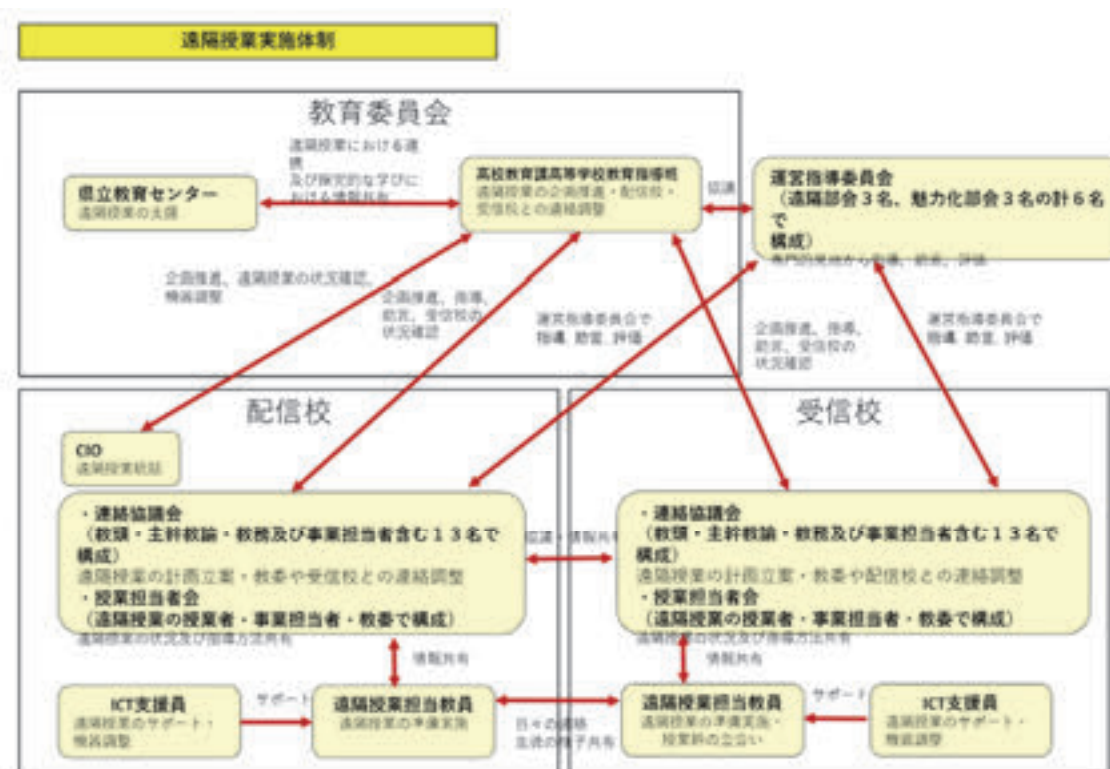
### 2.1. 調査計画

#### ■実施日程（遠隔授業）

月	実施内容
令和4年 4月	第1回くまもと夢への架け橋ネットワーク連絡協議会 日課・教科書・教育課程等の調整 遠隔授業開始時の状況把握 令和5年度教育課程の提出 遠隔授業コーディネーター（CIO）任用手続き
5月	令和5年度使用教科書の採択
6月	くまもと夢への架け橋ネットワーク Classroom 作成 運営指導委員委嘱手続き
7月	第2回くまもと夢への架け橋ネットワーク連絡協議会 第1回実証地域連絡会議
8月	くまもと夢への架け橋ネットワーク授業担当者会
9月	遠隔会議システム調整
10月	第1回運営指導委員会
11月	第3回くまもと夢への架け橋ネットワーク連絡協議会 第2回実証地域連絡会議 内田洋行・運営指導委員による訪問調査
12月	内田洋行ヒアリング
1月	次年度開講授業準備
2月	第1回運営指導委員会 事業成果報告会 遠隔授業コーディネーター（CIO）再任用手続き
3月	次年度に向けた各構成校との打合せ 報告書刊行



## 2.2. 実施体制



## 2.3. 取組概要

次年度以降の遠隔授業を円滑に進めることを目指し、教員としての経験年数や経験勤務校に因らずに、遠隔授業の体制をと整えることが可能であることを実証し、教育委員会及び構成校を繋げたクラウドによるデータ共有、及び複数回にわたる連絡協議会等によるネットワーク構成校との密な連絡や協議を実施し、遠隔授業を行う運営体制を整えた。

また、本県では配信校と受信校の生徒を同時対象とした授業や教育センターから配信のみを行う授業等、複数のパターンで授業を実施しているため、授業担当者を対象とした協議会を開催し、授業づくりや生徒の見取り・評価について情報共有を図った。

さらに、受信側の学校における立ち会う者の役割を教科指導や担任の指導に紐づけ、役割に意義を持たせる工夫を重ねた。

結果として、各授業で、遠隔授業を受けた生徒の評価は高かった。自校の生徒だけではなく、他校の生徒との交流も生まれ、学校間を超えた新しい授業の形が創出できた。

学校間連携を行うための運営体制として、くまもと夢への架け橋ネットワーク連絡協議会、各校コンソーシアムや運営指導委員会を設置するとともに、遠

隔授業コーディネーター（C I O）を任用し、昨年に引き続き、第一高校に配置した。連絡協議会では、教育課程等の共通化、遠隔授業の実施と評価等について協議を行い、各構成校の情報を共有した。くまもと夢への架け橋ネットワークに係る担当者の Classroom 及び各構成校の生徒同士を繋げる Classroom を作成し、年間を通じて、取組状況を共有した。また、運営指導委員会において、取組状況に対して、委員から指導・助言を受けながら、事業を推進した。

2.3.1. 遠隔授業実施表（\*「全授業回数」は、遠隔授業を想定した授業の回数を示す。）

配信拠点	受信校	教科名	科目	開設学年	配信校生徒の有無	遠隔授業実施理由	試行・本格実施の別 (R3・R4・R5)	受信側の配置体制	遠隔授業実施回数/ *全授業回数
第一高校	小国高校普通科	数学	数学B	第3学年	有	習熟度	R3 : 試行 R4 : 本格実施 R5 : 本格実施	教員	33/35 +対面 2回
第一高校	小国高校普通科	数学	実践文系数学	第3学年	有	習熟度	R3 : 試行 R4 : 本格実施 R5 : 本格実施	教員	51/53 +対面 2回

球磨中央高校	小国高校普通科	商業	マーケティング	第3学年	有	免外	R3 : 試行 R4 : 本格実施 R5 : 本格実施	教員	44/46 +対面 2回
第一高校	牛深高校総合学科	地理 歴史	地理A	第2学年	有	専門性	R3 : 試行 R4 : 本格実施 R5 : 実施なし	教員	61/63 +対面 2回
県立教育センター	球磨中央高校普通科	英語	異文化理解	第2学年	無	多様	R3 : 試行 R4 : 本格実施 R5 : 本格実施	教員	24/30 +対面 2回

## 2.4. 取組内容

### (1) 調査研究実績の説明

- ①「教科・科目充実型」の遠隔授業などICTも活用した連携・協働の取組  
(受信教室における体制の在り方に関する取組を含む。)

教育委員会と各授業担当者とのWEB会議や全構成校を対象とした授業担当者会、学校訪問による授業見学等で授業の実態を把握した。また、Classroomによる情報交換によって、授業づくりや生徒の見取り、評価方法について共有することができた。



## ■各構成校による「遠隔授業」に係る成果と課題

### ○第一高校

#### (成果)

- ・ビデオ会議システム（HDコム）やオンライン会議ツール（Google Meet）、その他 ICT を効果的な活用を常に行っていたことで、授業の配信をスムーズにできた。
- ・話し合いをしている様子や授業を聞いている相手校の反応などを見ることができるようになるため、試行錯誤を重ね、双方に満足いく遠隔授業の構成を見つけていくことができた。
- ・他校の先生と疑問や問題について話し合うことで解決へ向かうことができた。
- ・施設と設備等が適切に整備され、配信のためのスタッフ等がいれば、ある高校の授業を他校に配信することが可能であるということがわかった。
- ・他校の生徒と（画面越しではあるが）常に刺激を与え合いながら、緊張感を保って授業を進めることができた。（受信校の生徒にとっては、上級学校への進学を目指す、配信校の生徒向けの授業は、スピードが速く、定期考査の難易度も上がったと聞いている。）

#### (課題)

- ・受信校生徒が理解しているか、画面越しだとわかりにくい時がある。
- ・映せる範囲に限られる為、黒板全体を見ることが出来ないなど受信校生徒に不便が生じる場合がある。
- ・受信校生徒は、（授業担当教師が校内にいないために）質問することが難しい。
- ・スライドの明るさやコントラストは外からの光や映し出される映像によって変化するので授業中もリモコン操作の細かい調節が必要。

- ・より良い授業構成を提示していくためにも、COREネットワーク構成校との情報共有をこまめに行っていく必要がある。
- ・トラブルが起こってしまうと、配信校へ迷惑がかかるため、起こりうるトラブルの予測と、解決方法の共有が必要。
- ・評価を行うことが大変困難である。目の前にいない生徒への評価を行うことの負担が大きく、受信校の生徒や保護者の理解が得られるかどうか。
- ・急な時間割変更や授業担当者の出張、体調不良の際に受信校に多大な迷惑をかけてしまう。または、そのような事案に関しての配信校からの配慮の負担が大きい。
- ・できるだけ、受信校の生徒にも配信校と同様の指導や発問を行いたいと考えたが、発問のレベルやタイミングを考えると、どうしても配信校優先となってしまう。
- ・3年生の演習の授業ということもあり、内容を協働学習に“深める”というところまではいけなかった。また、配信校の生徒と、受信校の生徒が互いに意見を交換し合うような活動には至らなかった。
- ・配信校の生徒にとっては、通常の授業と大きな変化がないと感じているのではないか。
- ・授業者としては、常にカメラがある状態のため、机間指導を行うことをためらいがある。
- ・互いの学校行事や、短縮授業の把握を常に気にしていること、その調整に係る負担。
- ・3年生の数学は、演習中心のため、協働的な学び、探究的な学びを互いに、ということであれば、1、2年次の教科書の内容を進める授業の方が適している。(授業の前半は演習、後半で解説、という形態では、ライブで通信している意味が半減してしまう。)

## 今年度、自校で行った「遠隔授業」について(成果と課題)

### 松田CIOより CIOとしての成果

- ・ビデオ会議システム(HDコム)やオンライン会議ツール(Googleミート)、その他ICTを効果的な活用を常に行っていたことで、授業の配信をスムーズにできた。
- ・話し合いをしている様子や授業を聞いている相手校の反応などを見ることができるようになるため、試行錯誤を重ね、双方に満足のいく遠隔授業の構成を見つけていくことができた。
- ・他校の先生と疑問や問題を話し合うことで解決へ向かうことができた。



## 今年度、自校で行った「遠隔授業」について(成果と課題)

### 松田C I Oより C I Oとしての課題

#### ●授業に関する課題

- 受信校生徒が理解しているか、画面越しだとわかりにくい時がある。
- 映せる範囲に限られる為、黒板全体を見ることが出来ないなど受信校生徒に不便が生じる場合がある。
- 受信校生徒は、授業担当教師への質問が難しい。
- スライドの明るさやコントラストは外からの光や映し出される映像によって変化するので授業中もリモコン操作の細かい調節が必要。
- より良い授業構成を提示していくためにも、COREネットワーク構成校との情報共有をこまめに行っていく。
- トラブルが起こってしまうと、配信校へ迷惑がかかるため、起こりうるトラブルの予測と、解決方法の共有が必要。

## 今年度、自校で行った「遠隔授業」について(成果と課題)

### 授業者からの成果

- 施設と設備等がきちんと整備され、配信のためのスタッフ等がいれば、ある高校の授業を他校に配信することが可能であるということがわかった。
  - 他校の生徒と(画面越しではあるが)常に刺激を受けながら、緊張感を保って授業を進めることができた。
- (受信校の生徒にとっては、上級学校への進学を目指す、配信校の生徒向けの授業は、スピードが速く、定期考査の難易度も上がったと聞いている。)

## 今年度、自校で行った「遠隔授業」について(成果と課題)

### 授業者からの課題

- 配信や受信の機器の操作やトラブル処理、画像や音声の調整などに気を遣うことも多く、トラブルも多かった。
- 各校生徒の学力差が大きいと、配信校の授業に受信校の生徒がついていけなかったり、モチベーションが下がったりする可能性がある。かといって、その為に配信校が受信校の生徒に合わせた授業を行うことは難しい。これは、考査の難易度にも関連し、配信校の教員が受信校の為に考査問題を作成することも同様に難しい。
- 学校間での行事や考査、授業時間のずれがどうしても生じてしまい、その調整を行うことに非常に負担が大きかった(例1:片方が10分自学で、片方が15分復習、例2:片方が授業で、片方が復習プリント作業、例3:授業内容の入れ替えや同じ授業を2回行うなど)。配信校及び受信校の生徒にとっても、大きな問題である。

## 今年度、自校で行った「遠隔授業」について(成果と課題)

### 授業者からの課題

- 評価を行うことが大変困難である。目の前にいない生徒への評価を行うことの負担が大きく、受信校の生徒や保護者の理解が得られるかどうか。
- 急な時間割変更や授業担当者の出張、体調不良の際に受信校に多大な迷惑をかけてしまう。または、そのような事案についての配信校からの配慮の負担が大きい。
- できるだけ、受信校の生徒にも配信校と同様の指導や発問を行いたいと考えたが、発問のレベルやタイミングを考えると、どうしても配信校優先となってしまった。
- 3年生の演習の授業ということもあり、内容を協働学習に“深める”ということまではいけなかった。また、配信校の生徒と、受信校の生徒が互いに意見を交換し合うような活動には至らなかった。

## 今年度、自校で行った「遠隔授業」について(成果と課題)

### 授業者からの課題

- 配信校の生徒にとっては、通常の授業と大きな変化がないと感じているのではないか。
- 授業者としては、常にカメラがある状態のため、机間指導を行うことをためらった。
- 互いの学校行事や、短縮授業の把握を常に気にしていること、そのための調整は大変であった。
- 3年生の数学は、演習中心のため、協働的な学び、探究的な学びを互いに、ということであれば、1、2年次の教科書の内容を進める授業の方が適している。(授業の前半は演習、後半で解説、という形態では、ライブで通信している意味が半減してしまう。

### ○小国高校

#### (成果)

- ・ (HDコムの) 基本操作が単純で簡単。
- ・ (HDコムの) カメラの画質が良く、板書がはっきりと見える。
- ・ 生徒はモチベーション高く授業を受けている。
- ・ 生徒の個に応じた指導ができています。
- ・ 担当者は、他教員の授業を通年で見るができる。
- ・ 担任する生徒が授業を受ける様子を見ることができ、生徒理解につながる。



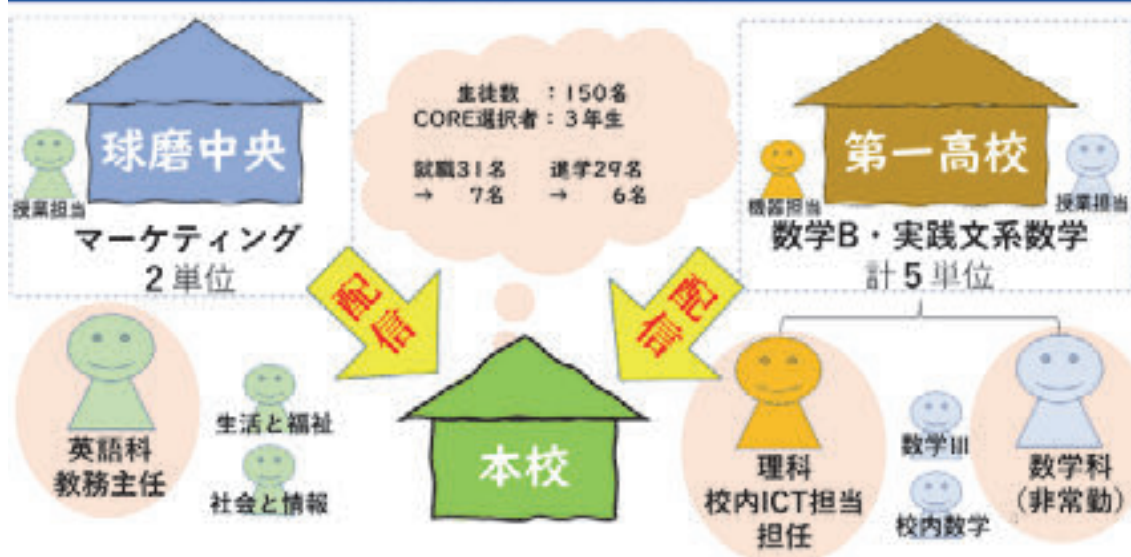
(課題)

- ・通信環境（遠隔授業を実施する教室には、校内Wi-Fiが届かないため生徒用端末の動作が不安定。）
- ・受信校側生徒の発表等、こちらから発信する場合、授業のテンポが悪くなる。
- ・特別時間割等、時間割調整ができない授業への対応（録画等）
- ・機器の操作やトラブル等が生じた場合の対応  
(遠隔授業コーディネーターは受信校側には不在)
- ・展開授業数の増加に伴い、必要な人員が増加している。

### 今年度、自校で行った「遠隔授業」について（成果と課題）

- 基本操作が**単純で簡単**
- カメラの**画質が良く、板書がはっきりと見える**
- 生徒は**モチベーション高く授業を受けている。**
- 生徒の**個に応じた指導**ができています。
- 担当者は、他教員の授業を通年で見る**ことができる。
- 担任する生徒**が授業を受ける様子を見ることができ、生徒理解につながる。

### 今年度、自校で行った「遠隔授業」について



## 今年度、自校で行った「遠隔授業」について（成果と課題）

- △通信環境（校内Wi-Fiが届かないため生徒用端末の動作が不安定）
- △受信校側生徒の発表等、こちらから発信する場合、授業のテンポが悪くなる。
- △特別時間割等、時間割調整ができない授業への対応（録画等）
- △機器の操作やトラブル等が生じた場合の対応（遠隔授業コーディネーターは受信校側には不在）
- △展開授業数の増加に伴い、必要な人員が増加している。

### ○牛深高校

（成果）

- ・他校の生徒と一緒に授業を受けることが、生徒に良い刺激となった。
- ・大きな機材トラブルがなく、1年間遠隔授業を実施することができた。

（課題）

- ・時間割の調整が難しい。
- ・生徒のつまづきを把握しづらい。
- ・評価が難しい。

・ 授業：地理 A（2単位）

・ 配信高：第一高校

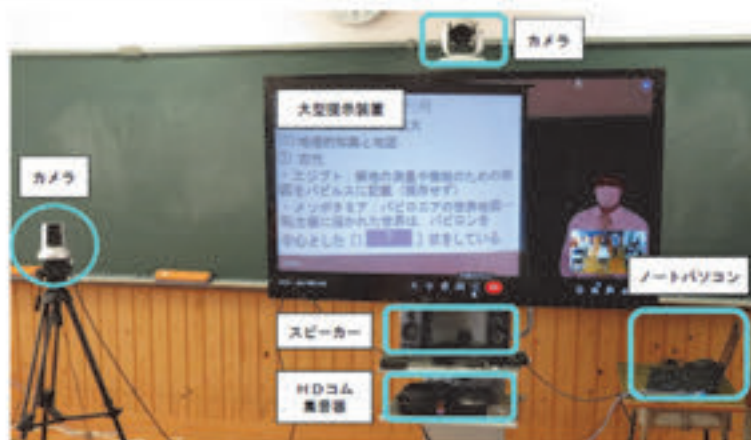
・ 受講生徒数：4名

・ 授業立会：体育科1名、芸術科1名



授業に立ち会う先生には、機材トラブル時の対応や出席状況及び生徒の様子等を記録していただいている。

## 遠隔授業を行うためのICT環境



- ・一人一台学習者用端末（タブレット）も活用している。

### ・成果

1. 他校の生徒と一緒に授業を受けることが、生徒に良い刺激となった。
2. 大きな機材トラブルがなく、1年間遠隔授業を実施することができた。

### ・課題

1. 時間割の調整が難しい。
2. 生徒のつまづきを把握しづらい。
3. 評価が難しい。



## ○球磨中央高校

### (成果)

- ・球磨にいながら、小国高校の生徒をより身近に感じることができる。
- ・双方向の遠隔授業なので、配信側だけの授業にならないように、常に小国高校の生徒の様子を確認しながら授業を展開している。「せっかく同じ授業を受けているのだから」と、球磨中央高校と小国高校でコミュニケーションをとらせることができた。
- ・受信側生徒の感想①「授業内容はニーズにあったものか」  
とてもそう思う 66.7% まあそう思う 33.3%
- ・受信側生徒の感想②  
不安 33.3% 楽しみ 50% 上手くいくのかな? 16.7%
- ・受信側生徒の感想③  
現在、遠隔授業を約8か月受けて、最初の思いと変化はありましたか?  
あった 50% なかった 50%
- ・受信側生徒の感想④  
授業が毎回楽しかった。  
最初は不安だったが、今は意見を言い合ったり笑いもあるので楽しい。  
他校の生徒との繋がりもできるし、意見も聴くことができる。  
基本的に知らない話を聞くことができる。  
より多くの人と意見交換ができ、考えを深めることができる。  
伝えたいことを相手に直接話すことができ、思いが伝わる。  
普通科では学べない商業の知識を得ることができる。  
学校、学年が違う生徒と同じ授業を受け、交流ができる。  
他校の奮起を知ることができ、端末の技術があがる。  
これからの社会は端末を使う機会が多いので学ぶことが多くあった。

### (課題)

- ・授業は楽しく学んでくれており、当初の不安は解消されてきたが、商業の基礎科目である「ビジネス基礎」を学習していない小国高校の生徒に専門科目である「マーケティング」をどう指導していくか。
- ・双方向遠隔授業においては「交流」「グループ活動」「コミュニケーション」がポイントになるのではないか。

# 1. 今年度、 自校で行った 「遠隔授業」について (成果と課題)



4月からの取り組みなど  
球磨中央高校生4名+小国高校1名の班を作り  
各班でMeetを立ち上げ、小国高校生を招待！



球磨にいながら、小国高校の生徒をより身近に感じることができる！

### 球磨中央高校 授業中の様子



Googleスライドや  
meetなどを使用し  
て双方向で学習



### 球磨中央高校 授業中の様子



「jam board」での  
グループセッション



### 4月からの取り組みなど

各班で市場調査のアンケート考え、球磨中央・小国両校の全生徒・全職員に回答してもらう



### 配信側として気を付けたこと



双方向の遠隔授業なので、配信側だけの授業にならないように、常に小国高校の生徒の様子を確認しながら授業を展開している。「せっかく同じ授業を受けているのだから」と、とにかく球磨中央高校と小国高校でコミュニケーションをとらせている。

### 受信生徒の見取り方



「jam board」や「ストリームの投稿機能」を使いながら評価の見取りを行う



## ②学校間連携を行うための運営体制に関する取組

### ア 運営体制について

管理機関である教育委員会（高校教育課）とネットワーク構成校が一体となって研究開発が実施できるよう運営体制を下図のように構築した。



本事業の管理機能を高校教育課内に置くとともに、高校教育課、県立教育センター、ネットワーク構成校の代表者が集まる「くまもと夢への架け橋ネットワーク連絡協議会」を運営体制の中心として位置づけた（具体的な内容については、イで述べる）。

県立教育センターを除くネットワーク構成校（第一高校、小国高校、牛深高校、球磨中央高校）においては、コンソーシアムを設置し、高校と地域とが連携・協働し、地域を生かした探究的な学びを推進する体制を構築した（具体的な内容については、③アで述べる）。

CIOについては、本県では「遠隔授業コーディネーター」と称し、令和3年10月1日より任用を行い、第一高校に配置した。この遠隔授業コーディネーターについては、昨年度は遠隔会議システム等のハードウェアやネットワークに知見があるだけでなく、高校での教職経験がある金子将太郎氏を任用し、技術的な面からだけでなく、教育的な面からも遠隔授業のあり方について検討を行えるようにした。今年度は松田伊津子氏を起用し、遠隔授業での効果的な教育法の研究・開発や遠隔授業システムの構築・保守・管理を行った。松田氏には、くまもと夢への架け橋ネットワーク成果発表会において、遠隔授業で得た知見について発表していただいた。

事業運営に関し、専門的見地から指導、助言、評価を行う機関として運営指導委員会を設置した（具体的な内容については、ウで述べる）。



## イ くまもと夢への架け橋ネットワーク連絡協議会について

連絡協議会にはネットワーク構成校の管理職及び事業担当者が参加し、遠隔授業及び地域と連携・協働した探究的な学びの実施に向けて、教育課程等の共通化や日課の調整等の体制づくり、年間を通じた成果と課題の共有を中心に協議を行った。

昨年度に引き続き、各学校の教育課程、日課、教科書、定期考査日程等は、各学校の実状や生徒や地域の実態に応じて決定しているため、構成校の4校を共通化することは難しい面もあるが、日課や教科書については、配信校に合わせる形で調整し、定期考査の日程については、配信側・受信側の2校間で共通日を設定し、そこで実施するようにした。

学習評価については、配信側・受信側の役割を明確化することで、受信側の生徒に対しても適切な評価が行えるようにした。

実施日 (実施方法)	内 容
令和4年 4月27日 (対面開催) *熊本県庁で 開催。	事業の概要説明 教科書の選定について 教育課程の共通化について 各構成校による報告
令和4年 7月8日 (オンライン 開催) *教育委員会関 係者が小国高校 を訪問の上、開 催。	Classroomの活用について CORE授業担当者会について 実証地域連絡会議について 運営指導委員会について アンケートについて 来年度の授業に係る教科書採択及び人数調査につ いて 「くまモンプロジェクト」について 成果発表会について CORE進路講演会&地域課題解決講演会につい て 各構成校による報告
令和4年 11月8日 (対面開催)	「くまモンプロジェクト生徒中間発表会」の振り返り 来年度の授業に係る科目選択人数の現状について 来年度の授業に係る日課について

<p>*熊本県庁で 開催。</p>	<p>来年度のCORE事業に係る機器使用について 成果発表会について 予算について 成果報告書について CORE進路講演会について 各構成校による報告</p>
<p>令和4年 11月9日 (オンライン 開催)</p>	<p>遠隔授業(試行)のオンライン参観 遠隔授業の効果的な配信・受信について</p>
<p>[次年度開講授 業打合せ] 令和5年 1月18日 (オンライン 開催) *教育委員会と 球磨中央高校に よる打合せ。</p>	<p>GLS(グローバルスタディーズ)について</p>
<p>[次年度開講授 業打合せ]  令和5年 2月3日 (対面開催) *教育委員会と 指導教諭による 打合せ。</p>	<p>発展英語について</p>
<p>[次年度開講 授業打合せ] 令和5年 2月9日 (オンライン 開催) *教育委員会と 球磨中央高校・</p>	<p>GLS(グローバルスタディーズ)について</p>

牛深高校による 打合せ。	
-----------------	--

■遠隔授業における配信校と受信校を入れ替えた授業について  
授業者の実践レポート  
(球磨中央高校→小国高校「マーケティング」)

6月と9月に行った小国高校での対面授業を利用し、受信校・配信校を入れ変えた形で配信授業を行った。

(授業者の感想)

- ・小国高校生徒に面と向かって授業ができたのはよかった。  
(精神的な距離が縮まったように感じる)
- ・球磨中央高校の様子がわかりにくい。誰が発表しているのかわからない。  
小国高校は少人数でメインカメラの正面に机を配置しているため様子を把握しやすい。

(次頁図1) ※図2は球磨中央高校の配置

- ・授業の様子をカメラで撮影してもらったので教材研究に役立てることができた。
- ・受信側生徒が見ている状況を球磨中央高校の生徒にも体験させることができた。
- ・運営指導委員の先生からの指導・助言にもあったように、授業の公平性を整える意味では、体験させることができてよかったと思っている。



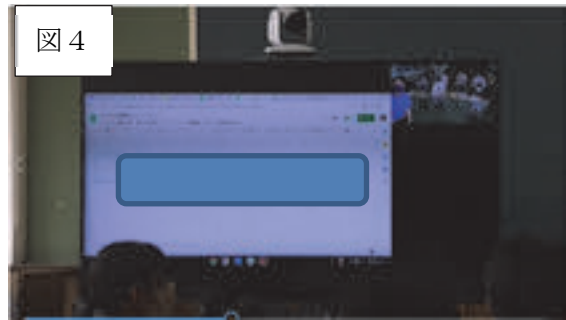
(配信側生徒の感想)

- ・先生がいなかったので少し焦った。
- ・(普段、球磨中央高校で授業をしている先生が)小国にいて驚いた。
- ・小国高校のみんなはこんな感じで授業を受けているのかと思った。
- ・スライドと音声だけだと学習しづらい。(図3)
- ・途中から小さくても先生が映っていたのでよかった。(図4)
- ・普通の授業の方が受けやすい。

図 3



図 4



(授業担当者が考える受信校・配信校入れ替えのメリット)

- ・ 受信側は配信校の状況を知ることができるので、通常の形式に戻った時に、意欲的に学習に取り組むのではないか。
- ・ 受信側の生徒の生の様子や高校の様子を知ることができ、配信校の先生方と話をすることで精神的な距離が縮まり、その後の授業に役立てることができる。

(授業担当者が考える受信校・配信校入れ替えのメリット)

- ・ 配信校側は担当者が受信校に行った時のために、必ず2名体制にならないといけない。

→担当時間数の負担につながる可能性がある。

## 2.5. 考察

### 【生徒アンケート】

#### ○実践文系数学

1. 授業の学習内容は理解できましたか。

評価

● とても理解できた	5
● 理解できた	1
● あまり理解できなかった	0
● まったく理解できなかった	0



2. 授業の映像は見やすかったですか。

評価

● とても見やすかった	3
● 見やすかった	3
● 少し見にくかった	0
● とても見にくかった	0



3. 授業の音声は聞き取りやすかったですか。

評価

● とても聞き取りやすかった	1
● 聞き取りやすかった	3
● 少し聞き取りにくかった	1
● とても聞き取りにくかった	1



4. 授業で改善してほしいところがありますか。

評価

● ない	6
● ある	0





## ○数学B

### 1. 授業の学習内容は理解できましたか。

評価

● とても理解できた	5
● 理解できた	0
● あまり理解できなかった	0
● まったく理解できなかった	0



### 2. 授業の映像は見やすかったですか。

評価

● とても見やすかった	1
● 見やすかった	4
● 少し見にくかった	0
● とても見にくかった	0



### 3. 授業の音声は聞き取りやすかったですか。

評価

● とても聞き取りやすかった	1
● 聞き取りやすかった	4
● 少し聞き取りにくかった	0
● とても聞き取りにくかった	0



### 4. 授業で改善してほしいところがありますか。

評価

● ない	3
● ある	2



## ○マーケティング

### 1. 授業の学習内容は理解できましたか。

注記

● とても理解できた	1
● 理解できた	5
● あまり理解できなかった	0
● まったく理解できなかった	0



### 2. 授業の映像は見やすかったですか。

注記

● とても見やすかった	2
● 見やすかった	4
● 少し見にくかった	0
● とても見にくかった	0



### 3. 授業の音声は聞き取りやすかったですか。

注記

● とても聞き取りやすかった	0
● 聞き取りやすかった	6
● 少し聞き取りにくかった	0
● とても聞き取りにくかった	0



### 4. 授業で改善してほしいところがありますか。

注記

● ない	6
● ある	0



○地理A

1. 授業の学習内容は理解できましたか。

評価

● とても理解できた	0
● 理解できた	2
● あまり理解できなかった	2
● まったく理解できなかった	0



2. 授業の映像は見やすかったですか。

評価

● とても見やすかった	0
● 見やすかった	1
● 少し見にくかった	2
● とても見にくかった	1



3. 授業の音声は聞き取りやすかったですか。

評価

● とても聞き取りやすかった	0
● 聞き取りやすかった	0
● 少し聞き取りにくかった	3
● とても聞き取りにくかった	1



4. 授業で改善してほしいところがありますか。

評価

● ない	3
● ある	1



## ○異文化理解

1. 授業の学習内容は理解できましたか。

詳細 [インサイト](#)

とても理解できた	12
理解できた	14
あまり理解できなかった	1
まったく理解できなかった	0



2. 授業の映像は見やすかったですか。

詳細 [インサイト](#)

とても見やすかった	13
見やすかった	13
少し見にくかった	1
とても見にくかった	0



3. 授業の音声は聞き取りやすかったですか。

詳細 [インサイト](#)

とても聞き取りやすかった	11
聞き取りやすかった	14
少し聞き取りにくかった	2
とても聞き取りにくかった	0



4. 授業で改善してほしいところはありますか。

詳細

ない	27
ある	0



## 【分析】

### ①学習内容理解

「とても理解できた」・「理解できた」という回答が多かった。

実際に学校に訪問した際の生徒への聴き取りや授業者の取組、連絡協議会や授業者対象の協議会等での情報交換を鑑みても、年間を通して、遠隔授業が成立し、受講した生徒から高い評価を得たことが判明した。

### ②映像の見やすさ

「とても見やすかった」・「見やすかった」という回答が多かった。

HDコムに映っている映像について、授業を実施する上での大きな課題が見受けられないことが判明した。

### ③音声の聞き取りやすさ

全科目において、「とても聞き取りやすかった」・「聞き取りやすかった」という回答が多かったが、「とても聞き取りにくかった」「少し聞き取りにくかった」という回答もあった。

連絡協議会等による学校からの意見、教育委員会による訪問、技術者による訪問による聴き取りにより、集音機的位置や教室内での音の反射、授業者の音量や話すスピードによって、聞き取りやすさに差が出ることが判明した。

### ④授業改善

授業改善の提案はほぼなかった。

一部、黒板を使っている授業においては、黒板の見えにくさを指摘する回答があった。第2回運営指導委員会においても、遠隔授業においては、黒板を使用するよりもスライドの方が見やすいという助言があった。同時に、成果発表会における他県の参加者の意見の中には、黒板を使用して授業が成立する方法が参考になったとの意見もあった。

### ⑤感想

授業者の授業に対して満足している回答が多かった。また、他校の生徒との交流に対する楽しさを指摘する声も多く、グループ学習等の取組をより求める回答もあった。新しい授業の形に新鮮さを感じたという回答も多かった。

一方、遠隔授業よりも対面での授業の方がよい、という意見もあった。



## 2.5.1. 目標設定シートに対応した成果と課題

○学びの基礎診断等により把握する生徒の学力の定着・向上の状況

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
目標値		57%	61%	65%
実績値	52.9%	55.1%	53.9%	
把握のための測定方法及び指標	第3期熊本県教育振興基本計画の数値目標に基づき、学力が向上した生徒の割合（単位：％）で算出した（「学びの基礎診断」認定ツールの結果に基づき算出）。今後も継続的に活用し、学びのPDCAサイクルの確立と学力向上に向けた取組を支援する。			

（成果）

遠隔授業における各授業の評価は高いものがあった。球磨中央高校から小国高校へ配信する「マーケティング」の授業では、小国高校の生徒は基礎的分野を学ぶ「ビジネス基礎」を受講していないにも関わらず、商業経済検定（マーケティング部門）に7名中2名が合格を果たす等の成果もあった。しかし、各授業の評価を測るにあたって、総合的な学力の指標となる学びの基礎診断の結果には結びつかなかった。

（課題）

今年度、遠隔授業を本格実施することで、学びの基礎診断で学力の定着・向上を測ることができるものと、測ることができないものがあることが判明した。本県の遠隔授業で設定されている授業が必ずしも学びの基礎診断で測ることができないものもあることから、学力の定着・向上の状況を把握するための方法の整理検討を模索する。

○その他、管理機関が設定した成果目標

成果目標②：C I Oによる成果発表会に参加した高校の数（管理機関等含む）

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
目標値		20	50	50
実績値	0	0	15	
目標設定の考え方	各県立高校が成果発表会に参加することにより、遠隔授業への理解を深め、普及を図る。			

（成果）

成果目標②のC I Oによる成果発表会に参加した高校の数は、参加を希望制としたため、目標の実績値50には届かなかったが、CORE事業に係る他県の管理機関や学校からの参加もあったため、実績値が15となった。

(課題)

来年度は、高校魅力化推進室で実施している「One Team プロジェクト」との連携を模索し、実績値の向上を目指す。

2. COREハイスクール・ネットワークとしての活動指標 (アウトプット)

(1) COREネットワークの構成校における遠隔授業の実施科目数

	2年度	3年度	4年度	5年度
実績	0	0	5	
見込み		0	5	16

(成果)

見込み通りの実績5となった。

(課題)

来年度は、計画当初予定していた指導教諭による「発展国語」及び「発展数学」の開講を見直すため、見込み数は減少するが、「発展英語」、「グローバル・スタディーズ」、「声楽」を新たに開講するため、増加する予定である。

(3) その他、管理機関が設定した活動指標

活動指標②：C I Oによる遠隔授業研修会を受講した高校の数

	2年度 (実績)	3年度	4年度	5年度
実績	0	0	0	
見込み		50	50	50
活動指標 の考え方	各県立高校が研修会に参加することにより、遠隔授業への理解を深め、普及を図る。			

(成果)

活動指標②のC I Oによる遠隔授業研修会を受講した高校の数は、成果発表会の中での発表を実施したため、今年度の実績はなかった。

(課題)

活動指標②については、今年度実施した成果発表会以外に、校長会や副校長・教頭会等の場面で、機会を設定し、遠隔授業研修会の実施を検討する。

### 3. コンソーシアム構築による教育の高度化・多様化に関する取組

#### 3.1. 調査計画

##### ■実施日程（コンソーシアム構築）

月	実施内容
令和4年 4月	第1回くまもと夢への架け橋ネットワーク連絡協議会
5月	各高等学校コンソーシアム会議（学校運営協議会） ※第一高校、小国高校、牛深高校、球磨中央高校
6月	「くまモンプロジェクト」連絡協議会 「くまモンプロジェクト」事前研究会 くまもと夢への架け橋ネットワーク Classroom 作成 運営指導委員委嘱手続き
7月	第2回くまもと夢への架け橋ネットワーク連絡協議会 第1回実証地域連絡会議
8月	くまもと夢への架け橋ネットワーク授業担当者会
10月	第1回運営指導委員会 「くまモンプロジェクト」生徒中間発表会
11月	第3回くまもと夢への架け橋ネットワーク連絡協議会 第2回実証地域連絡会議 内田洋行・運営指導委員による訪問調査
12月	くまもと夢への架け橋ネットワーク成果発表会 内田洋行ヒアリング
2月	第1回運営指導委員会 「くまモンプロジェクト」生徒中間発表会 各高等学校コンソーシアム会議（学校運営協議会） ※第一高校、小国高校、牛深高校、球磨中央高校 事業成果報告会
3月	次年度に向けた各構成校との打合せ 報告書刊行

#### 3.2. 実施体制

##### ■コンソーシアムについて

ネットワーク構成校では、地域との連携・協働した探究的な学びを実施するためにコンソーシアムを設置した（コンソーシアムを構成する機関は以下に記載）。

第一高校、小国高校及び牛深高校のコンソーシアムについては、学校運営協議会を母体として構成し、球磨中央高校においては、学校運営協議会内の一部の団

体で構成した。各校でのコンソーシアム会議は2～3回実施され、現在各校が行っている探究的な学びの説明及び地域の拠点としての高等学校のあり方についての協議を行った。

【第一高校：8人】

機関名	
第一高等学校清香会（同窓会）	熊本中央郵便局
熊本県立大学	第一高等学校好文会（PTA）
熊本市立西山中学校	熊本市都市建設局都市政策部市街地整備課
熊本市立一新小学校	第一高等学校

【小国高校：13人】

機関名	
小国町立小国中学校	小国町食生活改善推進協議会
小国町教育委員会	道の駅小国
小国高等学校後援会	小国町森林組合
小国町役場	小国警察署
南小国町役場	阿蘇広域行政事務組合消防本部北部分署
南小国町社会福祉協議会	小国高等学校育志会（PTA） ※2人

【牛深高校：12人】

機関名	
東海大学	天草市立牛深中学校
熊本日新聞牛深支局	天草市立牛深東中学校
天草市役所牛深支所	天草市立河浦中学校
牛深商工会議所	牛深高等学校育友会（PTA） * 2人
深川水産株式会社	牛深高等学校
三和商船株式会社	

【球磨中央高校：4人】

機関名	
錦町役場	球磨中央高等学校 * 2人
人吉新聞社	

### 3.3. 取組概要

ネットワーク構成校では、コミュニティ・スクール（学校運営協議会）により、学校と地域住民等が、学校の教育目標や課題について共有し、子どもの教育に関わっていく場がある。各構成校のコンソーシアムは、すでに導入しているコミュニティ・スクールを活用し、体制を整え、構成校との連携の上、事業推進を図った。

コンソーシアムを通じた教育課程内の取組として、各構成校で設定された「総合的な探究の時間」を活用し、コンソーシアムを活用した取組が実施された。生徒の主体的な活動に基づき、特産品を活用した商品開発や市街地整備課との協働プロジェクト、地域の観光等に関する考察等を実施し、地域課題解決に向けて調査、研究を進めた。その結果、地域から学校への関心も高まり、「地域とともにある学校づくり」に寄与した。

また、コンソーシアムを通じた教育課程外の取組として、県教育委員会により、地域課題解決に向けた探究的な学びを展開するプロジェクトである「くまモンプロジェクト」を実施した。クラウド上で随時、生徒の調査、研究過程を共有し、年間2回の中間発表会、成果発表会で研究内容を共有した。なお、事業全体の成果発表会においても、生徒による発表を実施し、他地域との比較や解決事例をもとにした研究に繋げた。

#### 3.3.1. 地域と協働した取組実績

ネットワーク構成校においてコンソーシアム会議を開催したことによる各構成校の成果は次のとおりであった。

##### ○第一高校

- ・地域における拠点としての高校の在り方や魅力化について協議を行った結果、地域資源を発掘し、地域人材育成の拠点となる学校づくりと多様な学びの教育実践につながった。
- ・熊本市市街地整備課との協働プロジェクトにより、生徒の汎用的能力の育成とかつ能動的な実践力の向上を図る取組となった。
- ・今年度、新たにD1L推進部を設置したことで、授業における探究活動の促進と「総合的な探究の時間」の研究・開発及びコンソーシアムとの連携を図る仕組みを整えた。
- ・熊本市市街地整備課との協働プロジェクトに取り組んだことにより、地域拠点としての学校づくりを推進する取組につながった。



## 今年度、自校で行った「探究的な学び」について(成果と課題)

### 花畑広場まちづくりプロジェクト



①グループ



②グループ

#### 目的

花畑広場の日常的な賑わいを創出するための取り組みを考える。

#### 生徒の取り組みテーマ

花畑広場を中心に  
「楽しさ」×「安心」  
を創出する。

#### 成果

- 他者目線に立った考え方の獲得。
- 企画・立案するために必要なことを実際のプランナーから直接指導を受けたことにより、プランナー目線での考え方の獲得。
- まちづくりについての講演を1年生に行ったことで、持続可能な取り組みとして位置づけできたこと。

## 今年度、自校で行った「探究的な学び」について(成果と課題)

### 花畑広場まちづくりプロジェクト

#### 課題

- 部活動生も多いため、自由に動ける時間が限られていること。生徒会を中心としたメンバーであるため、時期によっては動けなくなること。
- 生徒会を軸としたメンバーであるため、プロジェクトに興味を示さない生徒が出てしまった。

### ○小国高校

- ・ 1年生が取り組む、総合的な探究の時間における地域をテーマとした課題研究において、例えば地元の道の駅駅長を務めるコンソーシアム委員に話を聞きに行き地域の観光等に関する考察を深めたり、コンソーシアム委員の紹介により様々な地域の方々に助言をいただいたりなど、地域の教育資源を活用した学びを実践できている。同時に、「地域とともにある学校」の実現と魅力化の推進、地域の活性化にもつながっている。
- ・ 生徒の探究活動に専門的な視点や具体性が加わり、より深まりのある研究に資している。また、委員の方々の学校の教育活動への関心が高まり、例えば公開授業の際には進んで授業をご覧になり、適切なお助言や温かい激励の言葉をいただくなど、「地域とともにある学校」づくりに寄与している。

## 小国高校 3年間を通じた『尚志』の流れ



### 今年度、自校で行った「探究的な学び」について

#### 【CORE関係校（県内3校）との関わり】

- Google formsを使って、3校の生徒にアンケートを実施
- 熊本県内4校でのオンライン中間発表会
  - ・代表グループ2班は発表
  - ・その他の生徒はオンラインで発表を視聴

**他校生からの良い刺激をもらい、  
その後の探究への意欲につながった！**

### 今年度、自校で行った「探究的な学び」について

#### 【地域やコンソーシアムとの連携】

- ・道の駅小国「ゆうステーション」へのインタビュー
- ・小国町役場での町議会の傍聴
- ・小国公立病院へのインタビュー
- ・阿蘇ジオパークとの連携
- ・小国ジャージー牛乳を使用したクッキーの試食会を道の駅で開催  
→参加された方からぜひ成果発表会を見てみたいという要望があり、校内成果発表会（2月24日）を参観していただく予定

**現場の声を聴いたり、実態を知ったりすること、専門的な知識を持った方々の視点を知ること、他者と協働し、課題を解決していくことの重要性を知ることができた。**

○牛深高校

- ・ 地元自治体や関連企業、高等教育機関で構成されるコンソーシアムであるため、探究活動に関する講師の紹介や、探究活動成果物を地元の祭りや行事で販売したり、PR する機会をいただく等、多方面・多角的に御支援をいただくことができた。地元への若者定着やリターンについては、継続的な評価が必要である。
- ・ 第1回コンソーシアム時に本校探究活動テーマ一覧を配付した。その後、探究活動テーマに沿うような事業所を御紹介いただき、生徒達が直接事業所に出向き、研究を進めるための助言等をいただくことができた。第2回コンソーシアムでは、探究活動に関する予算について議論した。天草市事業からの予算捻出について検討していただくこととなった。

令和4年度これまでの取り組み

<p>「指導と評価の計画」 「ルーブリック評価表」</p>	<p>「指導と評価の計画」（1年次）新規に作成 「ルーブリック評価表」（2・3年次）既存の物を改訂</p>
<p>各年次年間活動計画作成</p>	<p>1年次：自己理解、職業調べ、インターンシップ 2年次：グループ別探究活動（地域課題解決） 3年次：個人による課題研究（関心×進路×地域）</p>
<p>意識アンケート調査</p>	<p>1年次：活動毎に実施 2・3年次：5月、7月に実施 ▶「まとめる」ことや「伝える」ことへの苦手意識</p>

令和4年度これまでの取り組み

COREハイスクールネットワークを活用した観光パンフレット作成

【調査項目】

- ▶牛深を知っているか
- ▶牛深を知ったきっかけ
- ▶牛深と聞いてイメージするもの
- ▶牛深に来たことがあるか
- ▶牛深に来た目的
- ▶どのようなきっかけがあれば来ようと思うか
- ▶牛深に来る時にどのような情報が欲しいか

くまモンプロジェクト Classroom



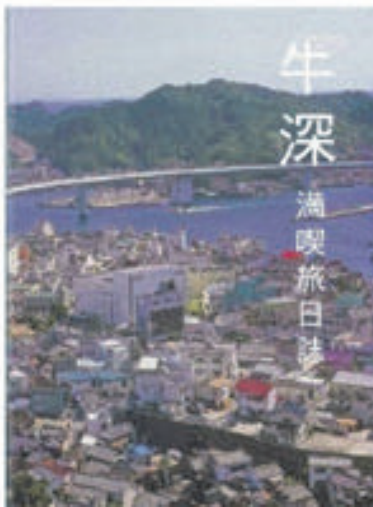
Googleフォーム リンクの共有







令和4年度これまでの取り組み



観光パンフレット  
「牛深満喫旅日誌」

- ・各校に配付
- ・再度アンケート実施  
→観光意欲への効果を検証

令和4年度これまでの取り組み



令和4年度これまでの取り組み

牛深高等学校 第6回 総合学科発表会



令和4年12月17日(土) 牛深総合センター

順	発表者	テーマ
1	郷土芸能部	「牛深ハイヤ節」披露
2	生徒会	学校紹介 Do you know Ushibuka high school?
3	翔陽高校	温度差でバイオマスな発電装置の製作
4	3年次課外活動	(天草宝島起業塾高校生コース) ラーメンで高校をHIGH校に！！
5	1年次	「産業社会と人間」活動報告、インターンシップ報告
6	2年次	牛深の良さを広め観光客を増やそう！！ 砂月海水浴場のマイクロプラスチックの調査
7	3年次	産業同化を利用した灯の有効活用～牛深漁灯計画～ ILLUMINATIONで地域活性化！

## 令和4年度これまでの取り組み



◀ 外部講師を招いての調理実習

KKT「てれビタ」での放送 ▶



## 令和4年度これまでの取り組み

### 意識アンケート調査の実施

#### 1年次

- ・地域理解が深まった
- ・プレゼン作成の技能面に苦手を感じる生徒あり
- ・校外での体験活動に主体的に取り組むことができていた

#### 2年次

- ・〈知識・技能〉の高まり
- ・プレゼンに関する講演会による数値の上昇
- ・探究活動への積極性が高い

#### 3年次

- ・〈知識・技能〉の高まり
- ・探究のプロセスについて理解度が上昇

15

## 令和4年度 成果と課題

### 成果

- ・コンソーシアムやCOREの繋がりを活用し、探究活動に深まりが出た。
- ・意識アンケートを実施したことで、学習効果を検証することができた。
- ・アンケート結果から見えた生徒の苦手意識にアプローチする活動を取り入れることができた。

### 課題

- ・個別指導の難しさ  
(教師の専門外の分野に対して)
- ・他校や外部との連携の難しさ
- ・教育課程内に収まらない活動

16



○球磨中央高校

- ・ 錦町チャレンジショップ、特産品を活用した商品開発の取組である。学校としては地域資源活用を目的とした探究的な学びの推進、地域としては持続可能な地域社会づくりに貢献できる人材の育成、教育委員会としては学校と地域が一体となった教育活動の推進という目的とつながっていると考える。
- ・ 生徒が地域資源の魅力、可能性に気付くことができたことが大きな成果である。また、地域と協働して活動を行う事で学校と地域との一体感が強くなったことも成果である。

# 「ランチパック」 の開発



熊本県立 球磨中央高校

# 令和2年7月豪雨




人吉球磨地域

## 壊滅的な被害



**ランチパック (裏)**

**マロンムースタルト (裏)**



私たちは熊本県球磨郡にある「球磨中央高等学校」の生徒です。令和2年7月豪雨で甚大な被害を受けた人吉球磨地域の復興に向け、一過性で終わるのではなく継続的にできることはないかという想いで企画しました。

**九州・山口地域のスーパー、コンビニ**



**学校や地域の枠を超えて一体**

**AEON 復興支援**



九州・山口800店舗

東京駅・秋葉原

**他校とのコラボ**



天草拓心高校  
マリン校舎

甲佐高校

人吉高校

南郷高校

球磨工業高校

球磨中央高校

球磨女子高等学校

球磨女子高等学校

実践するために、総合的な探究の時間等の目標（育成する資質・能力）等を見直し、指導と評価の計画を作成した。

各高校が地域課題解決のための探究的な学びを行う教科等は次のとおりである。

- ・ 第一高校（総合的な探究の時間）
- ・ 小国高校（総合的な探究の時間）
- ・ 牛深高校（産業社会と人間、総合的な探究の時間）
- ・ 球磨中央高校（総合的な探究の時間、G L S）

「くまモンプロジェクト」では、この計画をもとに行われる各構成校の探究的な学びについて、事前研究会や成果発表会を実施した。熊本県を一つのフィールドとしてとらえ、各高校の取組を一体的なものにするための仕組みを、クラウドを活用して構築に取り組んだ。

### 3.4. 取組内容

【2月17日（金）開催『くまモンプロジェクト生徒成果発表会』  
生徒発表資料】

#### ○第一高校①





**話の進行の主な流れ**

1. 花畑広場プロジェクトの意義
2. 花畑広場の改善すべき点
3. 実際に行う取り組みについて
4. 取り組みの効果と今後の展開

**2. 花畑広場の改善点**

シンボルプロムナードの「現状」と「未来」

現状

未来



**話の進行の主な流れ**

1. 花畑広場プロジェクトの意義
2. 花畑広場の改善すべき点
3. 実際に行う取り組みについて
4. 取り組みの効果と今後の展開

**3. 実際に行う取り組みについて**

第一高校×花畑広場  
~enjoy the afterglow~

出店: お茶の堀野園 様

生徒が作成した広告



**3. 実際に行う取り組みについて**

宣伝方法

目的

- ・梅を題材とする
- ・売上は目的としない
- ・地元の人々の声を実際に聞く
- ・次のイベントに繋げる

**話の進行の主な流れ**

1. 花畑広場プロジェクトの意義
2. 花畑広場の改善すべき点
3. 実際に行う取り組みについて
4. 取り組みの効果と今後の展開

**4. 取り組みの効果と今後の展開**

実際にイベントをやってみる

雰囲気を知る

反省点と改善点

目的

対象

実行

次のイベントへ

ご清聴ありがとうございました！

第一高校 第1グループ

花畑広場



○第一高校②



活動の様子



“日常の中に小さな日常を” とは...

○ 四季を感じられる自然

夜空を照らす場所を作る  
（イベントのイメージ）

花を置いて温かみを出さ



○ みんなで作るアート



日常の中に非日常を

➡ そもそも日常になれていない？

花畑広場をみんなにとって“身近な”存在にしたい

アイデアを出していたら...



花畑広場で催される予定の  
イベントに参加してみない？

「第一高校」としてコラボすることを決定！

花畑広場イベントとのタイアップ

- 企画、運営に参加
- ステージ企画でタイアップ

まとめ

まずは花畑広場を身近に感じてもらうのが大事

➡ 身近に感じてもらえるようなイベントづくり



第一高校もアピール！！



○小国高校①

## 小国ジャージー牛乳のひみつ

### 最終目標

阿蘇小国ジャージー牛乳を  
多くの人に知ってもらおう！

↓

使ってもらおう！

### 調べる方法

- 小国ジャージー牛乳に関するアンケート実施  
COREハイスクール所属校対象  
熊本県立第一高等学校・熊本県立牛深高等学校の1年生にアンケート協力してもらう
- インターネット (Google)
- 和田さんへのインタビュー

### アンケートから考えたこと

- 普段飲んでいる牛乳に比べるとジャージー牛乳が一番多く挙げられている  
⇒一般的に飲みやすい牛乳 (味、牛乳の濃さ、後味など...)  
比べて小国ジャージー牛乳は味が濃い、好き嫌いをはっきり分かれる
- テレビを通して知った人や家族から聞いて知った人がいる  
⇒熊本県内の多くの人に知ってもらうには**発信**することが必要

### 中間発表後の取り組み

- 魅力を伝えるためのポスター作り  
→地域のお店やCORE協力学校に配布予定
- 他の活用方法を知るためのインタビュー  
→小国町食生活改善推進員の和田さんに聞いてみました

### ポスター作成

### 小国町食生活改善推進員の和田さんにインタビュー！

- 小国ジャージー牛乳の良さはどこだと思いますか？  
⇒味が濃いところです。
- 小国ジャージー牛乳を使ったおすすめ料理はなんですか？  
⇒牛乳からカッテージチーズを作り、それを巻きました。サラダの上にのせたりするのがおすすめです。

### 「小国ジャージー牛乳を使ったお菓子作り」の垣の取組

## 今後の活動方針

- ・CORE協力学校にポスターを配布する。
- ・ジャージー牛乳を多くの人に知ってもらい、使ってもらうにはどうしたらいいか考え、活動を続けていきたい。

ご清聴ありがとうございました

## ○小国高校②

知ってほしい！  
小国の豊かな水



鍋ヶ滝



遊水峡



これら2つは有名ですが...

### 下城の滝&鍋釜滝

・下城滝

落差40mの豪快に流れ落ちる滝

・鍋釜滝

上流に流れ落差はないが幅の広い綺麗な滝

・滝周辺には遊歩道が整備されていて、上から見る事が出来る→**迫力満点!**



**「福運3社」**

宝くじ運UP ↑ ↑

## 鏡ヶ池の水神様



### けやき水源

- ・樹齢約千年にもなる榎の大木
- ・一年中水が湧き続ける池
- ・近隣の人々道の憩いの場

水が湧いている様子①

対岸から見た榎の大木②



## 鏡ヶ池

### 1.ホームページの改善

- ・ホームページの改善を発信元に提案してみる。
- ・自分たちでホームページを作成・編集する。

### 2.SNSの活用

- ・自らアカウントを作って運営する

### 実際に運営しているInstagram

※2月16日時点の画面

@ogunisikakatan



## 今後の活動方針

- ・今後も発信を続ける
- ・ホームページの改善を提案

# まとめ

### 参考文献

- 一般生活者向け「くまもと」小国町観光委員会
- 「十二歳児童の環境学習」水物語
- 「くまもと県」環境の水神様 | 観光局小国町  
<http://www.kumamoto.go.jp/11737/11737main011/>
- 「くまもと」観光・文化 | 小国町  
<http://www.town.kumamoto.jp/11737/11737main011/>
- 「くまもと」観光  
<http://www.kumamoto.jp/11737/11737main011/>
- 「くまもと」観光 | 観光局 観光案内 - App Store | 観光局  
<http://www.kumamoto.jp/11737/11737main011/>
- 「くまもと」観光 | 観光局 - 観光局  
<http://www.kumamoto.jp/11737/11737main011/>



○牛深高校①



牛深の良さを広め  
観光客を増やそう!!

**牛深の現状と課題**

	旅行者		宿泊客	
	県内	県外	県内	県外
H28年度	約170万人	約73万人	約13万人	約15万人
H29年度	約166万人	約77万人	約12万人	約14万人

約4万人減っている

県外約1万人減っている

**牛深の課題**

観光客数が年々減少している

**仮説**

パンフレットの作成  
SNSのアカウント作成  
をすることで

↓

多くの人に牛深を宣伝することができ、  
観光客増加につながるのではないか!

**これまでの活動内容**

1. 知名度を知るためにCORE関係校と近隣の天草高校にアンケート調査を実施
2. アンケートの集計・分析
3. アンケート結果を元にパンフレット作り

**活動内容3**

完成したパンフレットを  
協力していただいた方の元へ配布!!



**パンフレット配布の様子**



**活動4**

パンフレットを読んだの  
感想などについてアンケートを依頼



ありがとうございます😊

### アンケートの内容

1. 一番魅力を感じたページはどこか
2. 牛深に行ってみたくと思ったか
3. パンフレットを見て他にほしいと思った情報は何か

### アンケート結果

1年生  
30人

2年生  
29人

3年生  
11人

学校の先生  
3人

### 1番、魅力を感じたページはどこですか？

1位  
ご飯屋さんの紹介

26票



2位  
イベント紹介

12票



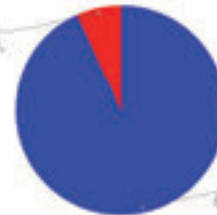
3位  
旅行プラン

7票



### 牛深に行ってみたくと思いましたか？

いいえ  
8.8% 5人



はい 青

いいえ 赤

はい  
68人、93.2%

### パンフレットを見て他にほしいと思った情報は？

- ・味付けや使われている魚、食感が分からない
- ・もっと具体的な価格が知りたい
- ・若者に人気のカフェを教えてください
- ・ばくだんとは何か教えてください
- ・クーポン券があると活用度が上がると思う
- ・各施設やイベントの細かな情報がほしい

- ・商店街以外のお店の情報がほしい
- ・地名や難しい漢字には読み仮名をふってほしい
- ・年代別のおすすめスポットや若者向けの映えスポットが知りたい
- ・カラーだと見やすかった

### 今後の取組について

#### SNSアカウントの活用

soutan\_ushikou4

パンフレットの情報や、パンフレットに載っていない牛深の情報を載せています。ぜひ、フォローしてください！



### 大人になった時

時間



お金



移動



\\o\\ そうだ！牛深に行こう！！





○牛深高校①



仮説

牛深の魚(雑節)を使った料理を作り販売したら、牛深に人が集まり、盛り上がるんじゃないか？

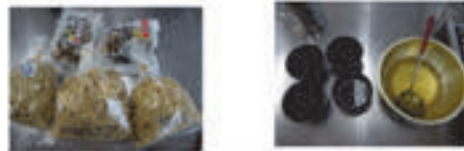
きっかけ

牛深にはラーメン専門店がない。  
雑節を使ってラーメンが作れないか？



1 研究①

昆布、雑節(ムロアジ、サバ、イワシ)  
しいたけ汁を使い、出汁をとった。

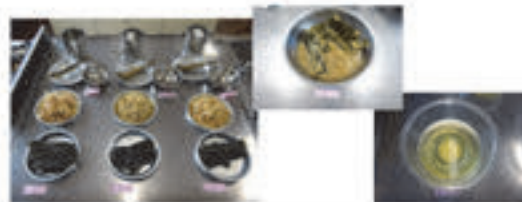


研究①の考察

- ・しいたけの味が強くあまり美味しくなかった
- ・味が薄かった

2 研究②

昆布と雑節と煮干しの水出しとスープを混ぜ合わせた。



スープ(湯:タン)の材料

もみじ:500g 2L ひざがら:500g 2L

ガラ:500g(1羽分) 水 4L 野菜 長ネギ(青い部分)一本分  
にんにく 4片 生姜薄切り4枚 人参 20g



鶏ガラ(天草大王)の下処理

- ・水に1時間ほどつけて血抜き
- ・鶏ガラを沸騰したお湯に入れてアク抜き(30秒から1分)
- ・少し残っている毛を取った



ひざがら(骨付きもも肉の内側の骨)の下処理

- ・血の固まりを水できれいに洗い流す
- ・下茹でをする

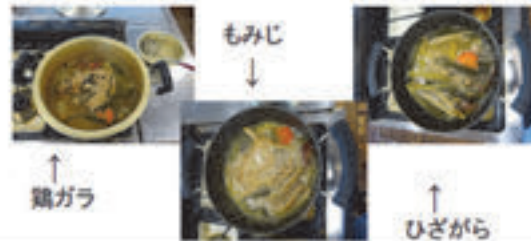


もみじ(足先)の下処理

下茹でをして、爪を切った。

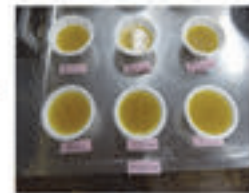


3つの鍋に分けてスープをとる



混ぜ合わせて試した結果・・・

鶏ガラ・鶏ガラ・もみじ  
サバ・イワシ・アジ  
を混ぜた結果⇒全体的に味が薄かった



塩・醤油・胡椒を入れたら  
少し味が良くなった。

(中間報告)

雑節・鶏ガラスープなどを  
混ぜただけでは 美味しくない

➡ プロに助言してもらおう！！

レストラン「あおさ」より 調理師 松岡さん 来校



鶏ガラに熱湯をかけ、「血合い」や「内臓」など、骨の中に残っているものをきれいにことする  
⇒ 丁寧な下処理の重要性

レストラン「あおさ」より 調理師 松岡さん 来校



お湯をかけたあと、  
もみじ(天草大王の足先の部分)に残っている皮や爪を丁寧に外す



レストラン「あおさ」より 調理師 松岡さん 来校



野菜をたっぷり入れて熱かにコトコト煮る  
(2時間程)

「かえし」を作り、スープに味をつける  
(左の写真:アルコールをとばしているところ)  
(右の写真:一箸たしを味わっているところ)

KKT「テレビた『全力応援!!あすプロ』の取材 ①



KKT「テレビた『全力応援!!あすプロ』の取材 ②



当面の目標:4月の「牛深ハイヤ祭り」で出店!!



※イラストはイメージです。

雑節ラーメンの開発



ご質問ありがとうございます

○球磨中央高校①

球磨中央高校



「ランチパック」  
の開発



熊本県立 球磨中央高校



人吉球磨地域

令和2年7月豪雨



壊滅的な被害

復興のシンボルとなるような商品と一緒に開発して欲しい。



山崎製パン  
株式会社







山崎製パンと協議



試作品



Yamazaki

マロンムース タルト

令和2年7月豪雨からの復旧・復興に1袋あたり1円を熊本県に寄付いたします。

ランチバック(裏)

マロンムースタルト(裏)

私たちは熊本県球磨郡にある「球磨中央高等学校」の生徒です。令和2年7月豪雨で甚大な被害を受けた人吉球磨地域の復興に向け、一過性で終わるのではなく継続的にできることはないかという想いで企画しました。

九州・山口地域のスーパー、コンビニ

学校や地域の枠を超えて一体

AEON 復興支援

東京駅・秋葉原

CORE連携校への アンケート

球磨中央高校の生徒が開発した「球磨栗入りのランチバック」または「マロンムースタルト」は、1個の売上につき、1円が被災地に寄付されますが、買ってみたいと思いますか？

※回答数27人(2023/02/08)

● 買いたい ● 買いたくない

「球磨栗入りのランチバック」または「マロンムースタルト」を買って食べたことがありますか？ 食べた人は、5段階で美味しさを表してください。

※回答数27人(2023/02/08)

● 5 ● 4 ● 3 ● 2 ● 1 ● 食べたことがない

良い ← 54321 → 悪い

小国高校 とのコラボ

小国ジャージー牛乳

今後、新たに商品を開発すると仮定して、「小国ジャージー牛乳ホップクリーム」と「球磨栗」を使った、小国高校、球磨中央高校コラボのランチバックまたはタルトが販売された場合、購入したいですか？ 期待度を5段階で表してください。

※回答数27人(2023/02/08)

● 小国高校 ● 球磨中央高校

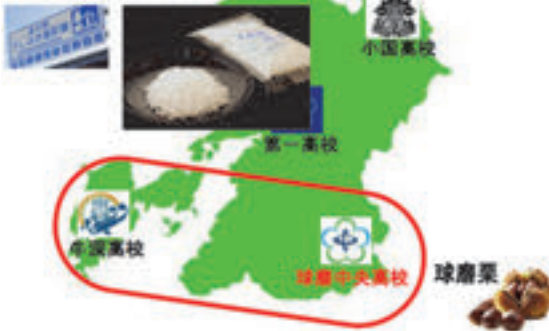
● 5 ● 4 ● 3 ● 2 ● 1

高い ← 54321 → 低い

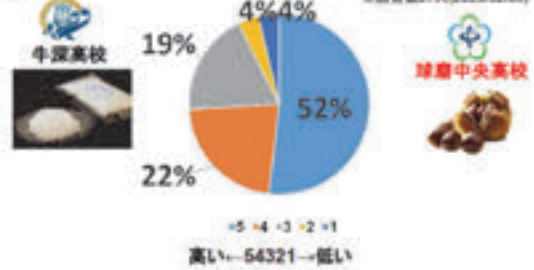


### 牛深高校 とのコラボ

茂串沖の天日干し塩



今後、新たに商品を開発すると仮定して、「牛深の茂串沖の天日干し塩を使った、塩キャラメルソース」と「球磨菓」を使った、牛深高校、球磨中央高校コラボのランチパックまたはタルトが販売された場合、購入したいですか？ 期待度を5段階で表してください。

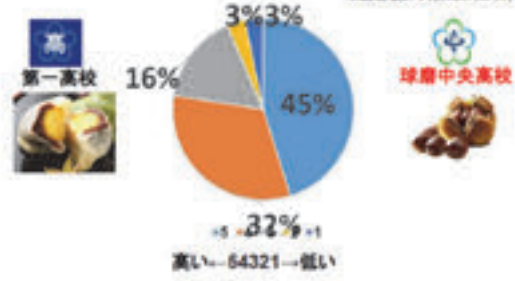


### 第一高校 とのコラボ

城彩苑のいきなり団子のわたなべ様のサツマイモ



今後、新たに商品を開発すると仮定して、「城彩苑のいきなり団子のわたなべ様のサツマイモ」と「球磨菓」を使った、第一高校、球磨中央高校コラボのランチパックまたはタルトが販売された場合、購入したいですか？ 期待度を6段階で表してください。



御静聴、ありがとうございました。

### 「ランチパック」の開発



熊本県立 球磨中央高校

○球磨中央高校②

# 球磨中央高校

# ②

学校や地域の枠を超えて一体

「球磨中央百貨店」

## 他校とのコラボ



熊本県立 球磨中央高校

## 球磨中央百貨店



10月22日(土)  
10月23日(日)

## 他校とのコラボ



## 天草拓心高校 マリン校舎 とのコラボ サバ缶の販売



## 甲佐高校 とのコラボ ニラみそあられの販売



### 球磨工業高校 とのコラボ

#### BBQコンロ等の販売



### 南陵高校 とのコラボ

#### 花・食品の販売



### 球磨支援学校 とのコラボ

#### 生徒の生産品の販売



### 人吉高校 とのコラボ

#### 創立100周年のPR



### 学校や地域の枠を超えて一体



### CORE連携校への アンケート



2022年度の球磨中央百貨店では天草応心高校マリン校舎の「ヤノ」他、甲佐高校の「こらみそあしれ」、南陵工業高校の「BBQコンロ」、南陵高校の「花・食品」、球磨支援学校の「生産品」を販売しました。**来年度、他校、他地域の商品を販売するとして、お勧めのものはありますか？** (※回答数8/27人(2023/02/08))

- ★ 小国ジャージー関連商品…5人
- ・ 牛深の干物…1人
- ・ ばくだん(牛深のゆで卵の練り製品)…1人
- ・ ほうれんそう、しいたけ…1人

### 学校や地域の枠を超えて一体

#### 「和綿の里」プロジェクト

#### 他校とのコラボ



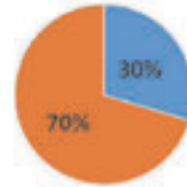


## CORE連携校への アンケート



## 綿(コットン)生産地に関する環境や人権等の問題を 知っていますか？

※回答数27人(2023/03/08)



→知っている →知らない

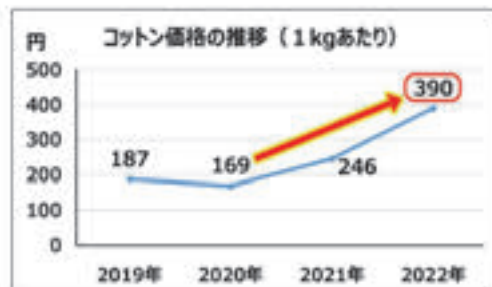
綿花 → 糸 → 衣服・布製品

綿花の生産量 (2020年、国際統計サイト)

順位	国名	単位：トン
1	中国	20,800,000
2	インド	17,731,050
3	米国	8,737,277

フェアトレード

農薬 環境破壊



輸入に頼らず 環境にも配慮 「和綿の里」プロジェクト

学校や地域の枠を超えて一体

福岡工業高校 球磨中央高校 南郷高校

熊本日日新聞の記事

綿花栽培 高校生とタッグ

6月に種播き、11月に「綿花」収穫

商品開発

綿花 → 糸 → 商品開発

## CORE連携校への アンケート



## 日本産(人吉球磨産)のオーガニックコットン(有機栽培の和綿)の商品が販売された場合、どんな商品 だったら購入したいですか？

※回答数27人(2023/03/08)

- ★ ハンカチ・・・16人
- ・ フェイスタオル・・・9人
- ・ 肌着・・・1人
- ・ メイクコットン・・・1人



学校や地域の枠を超えて一体

「球磨中央百貨店」

「和綿の里」プロジェクト



御静聴、ありがとうございました。

### 3.5. 考察【生徒アンケート】

2. 『くまモンプロジェクト』に参加した感想を教えてください。(0 点数)

[詳細](#)

● とてもよかった	22
● まあよかった	8
● あまりよくなかった	0
● とてもよくなかった	0



9回答者 (30%) この質問に 他校回答しました。



## 【分析】

### ①『くまモンプロジェクト』参加の感想

全ての生徒の回答が 『くまモンプロジェクト』に参加して、「とてもよかった」・「まあよかった」というものだった。

### ②「とてもよかった」「まあよかった」と回答した具体的な理由

具体的な理由として、他校や他の地域のことを知らないために魅力を知ることができてよかったとの回答が多かった。また、遠隔授業と同様に、他校の生徒との交流に肯定的な意見も多かった。

### ③「あまりよくなかった」「とてもよくなかった」と回答した具体的な理由

「あまりよくなかった」・「とてもよくなかった」と回答した生徒がいなかったため、具体的な理由もない。

### ④改善要望

活動内容の充実、オンラインだけではなく対面での活動成果発表を望む回答があった。

## 3.5.1. 目標設定シートに対応した成果と課題

### 1. 本構想において、実現する成果目標の設定（アウトカム）

#### (2) 地域課題の解決等の探究的な学びに関する科目等の数（総合的な探究の時間を含む。）

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
目標値		0	5	7
実績値	0	2	5	

(参考) 上記のうち、学校設定科目の数

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
目標値		0	1	2
実績値	0	1	1	

#### (成果)

目標値どおり、地域課題の解決等の探究的な学びに関する授業数の実績値を上げることができた。

#### (課題)

来年度は、球磨中央高校から牛深高校へ配信する「グローバル・スタディーズ」も開講されるため、実績値が上がることを考えられる。科目数の増加だけではなく、探究活動の質的分析も行うことも検討する。

(4) その他、管理機関が設定した成果目標

成果目標①：県立高校のコンソーシアムの設置校数

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
目標値		7	10	20
実績値	4	8	8	
目標設定 の考え方	地方部の高校を中心にコンソーシアムの設置を進め、地域と協働した体制づくりを推進する。			

(成果)

成果目標①の県立高校のコンソーシアム設置数は、昨年同様の数値にとどまった。

(課題)

来年度は、高校魅力化推進室で実施している「One Team プロジェクト」との連携を模索し、実績値の向上を目指す。

2. COREハイスクール・ネットワークとしての活動指標（アウトプット）

(2) 地元自治体等の関係機関とコンソーシアムを構築している学校数

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
実績	0	4	4	
見込み		4	4	4

(成果)

計画当初から変わらず、構成校全てが地元自治体等の関係機関とコンソーシアムを構築している。

(課題)

来年度も同様に関係校全てが地元自治体等の関係機関とコンソーシアムを構築する予定である。

(3) その他、管理機関が設定した活動指標

活動指標①：コンソーシアム委員会の1校当たりの年間開催回数

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
実績	0	2	2	
見込み		4	5	5
活動指標 の考え方	概ね2ヶ月に1回の開催を目指す。			

(成果)

活動指標①のコンソーシアム委員会の1校当たりの年間開催回数は昨年同様であった。

(課題)

活動指標①については、学校運営協議会と紐づいた活動を実施しているため、大幅な実績値増加は困難である。連絡協議会等でコンソーシアム委員会の活用を模索する。



#### 4. まとめ

##### ウ 運営指導委員会について

運営指導委員として以下の6名の学識経験者に委嘱を行った。昨年度は、遠隔授業や学習評価に知見のある大学教授等を中心に「遠隔部会」を、地域と学校のあり方に知見のある大学教授等を中心に「魅力化部会」を設置したが、今年度は部会を廃止し、全委員にテーマを問わずに指導・助言をいただいた。

##### 【運営指導委員】

岐阜大学 益子 典文氏

熊本大学 田口 浩継氏

崇城大学 星合 隆成氏

島根大学 中村 怜詞氏

熊本大学 田中 尚人氏

地域・教育魅力化プラットフォーム 奥田 麻依子氏

委員会は2回（令和4年10月と令和5年2月）開催し、遠隔授業や地域との連携・協働のあり方について指導・助言をいただいた。

##### 【第1回】令和4年（2022年）10月3日実施（オンライン開催）

（内容）

- ・事業の概要説明
- ・事業説明〔概要〕（高校教育課）
- ・現状報告〔遠隔授業〕（各学校）
- ・運営指導委員からの指導・助言〔遠隔授業〕
- ・現状報告〔探究的な学び〕（各学校）
- ・運営指導委員からの指導・助言〔探究的な学び〕

（運営指導委員からの助言）

##### 【遠隔授業について】

- ・各地域の事例を見ながら、事業を推進して欲しい。
- ・遠隔授業に対する研究と共に、対面授業の重要性も理解しておく必要がある。
- ・遠隔授業を行うことで、負担が減っているとはいえないのではないだろうか。体制が整い、認められるまでには時間がかかる。まずは、今年度やってみることから始めるとよいと思う。
- ・クラウドを探究で活用することも考えられる。遠隔における人間関係構築の動向も興味がある。

- ・ 時間割の調整については、同期するしかないと思われる。調整は宿命的なものだと考える。場合によっては、時間割の外でやるしかない。
- ・ 質問のしにくさという課題については、まず画面上でよいので発言することから始まると思う。教育上の工夫が必要である。
- ・ 複数の学校の生徒による授業には、新しいシナジーを感じる。マンネリ化を防ぐ効果もあると思う。
- ・ 工夫できる余地があるかということも含めて、工夫の共有が必要だと思う。長所を生かす取組が必要である。
- ・ 遠隔授業により負担が増えているように感じる。メリットが見出しにくい。空間が違うもの同士のコミュニケーションには難しさがある。
- ・ 手元の端末を含めて、何ができるのか。調整の上、どこまでやらなければならないのかという視点が大事である。
- ・ 事業を行う上で、最初はマストがかかる。制度的には動いていると思う。
- ・ 大学でも遠隔授業は行われている。いろいろな工夫を吸収して欲しい。

#### 【コンソーシアム活用について】

- ・ コンソーシアム活用のノウハウを共有しようとする動きは、熊本県独自のものである。
- ・ 評価が大事になるので、因果関係を整理すること。
- ・ ルーブリック評価やICTのメリットを、学年を超えて考えていくことが必要。
- ・ 生徒同士の共同研究も実施できればよい。
- ・ 地域の方と学校がつながり、共同研究が模索できればよい。
- ・ 先行研究を学び、新しいテーマ設定を行うことも大事。

#### 【第2回】令和5年（2023年）2月14日実施（オンライン開催）

（内容）

- ・ 事業説明〔概要〕（高校教育課）
- ・ 事業成果報告（遠隔授業について、地域と連携・協働した探究的な学びについて）（各学校）
- ・ 運営指導委員からの指導・助言

（運営指導委員からの助言）

#### 【遠隔授業について】

- ・ 立ち合う者の資質を定義づけしていくことは大事。
- ・ 小規模校において、リソースを使っていくことは難しいかもしれない。

- ・遠隔授業を、対面授業の延長として捉えるのか、延長ではない授業として捉えるのか、では意味が違う。
- ・遠隔地にいる生徒はリアリティが異なるため、目の前にいる生徒とは傾斜をつけてリアリティを上げることを考えてもよい。
- ・共通に取り組む課題を持たせることで差がなくなることも考えられる。個人で取り組む時間を作ること。
- ・機器の設定に課題がある場合、高校生に設定させることも考えられるのではないか。そのことが、相互作用を増やすことにもつながるかもしれない。
- ・グループの中に他校の生徒を入れて、小グループでの交流をする取組も考えられる。
- ・黒板の授業よりもスライドの方が見やすいと思う。
- ・時間割を年度が始まる前に調整することはできないだろうか。もともとのフレームがずれているものをそろえることは難しい。
- ・クラウドが入ることでお互いの頭の中にあるものを可視化できるようになった。Google スプレッドシートやフォームズでの回答によって、目に見える形で評価できるようにすることは有効である。
- ・声楽においては、防音ができるかどうか考慮した方がよい。音が反射する場合がある。
- ・先生方の負担はあると思う。教員の研修の仕組みとして、取り込むことはできないだろうか。スーパーティーチャーの授業を見学することで教員研修の一つにすることも考えられる。
- ・立ち合う者のコマ数が単純に増加してしまうのであれば、PTAの補助等も考えられないか。
- ・事業の目的は、今後、参加校を増やして熊本県CORE事業を自走化させることにあると思う。
- ・先行研究を参考にすることを第一回運営指導委員会で述べたが、質の高い研究のノウハウを学ぶ次のレベルへ来ている。
- ・教員研修の一つとして位置づけ、教育センターとの連携を図ることも考えられるのではないだろうか。
- ・CORE事業については、我々にも発想の転換が求められているように思う。
- ・自走化した場合、熊本県独自の運用方法を模索することも考えてよいと思う。

### 【コンソーシアム活用】

- ・探究活動が素晴らしい。今後の発展として、他校とのコラボが進めばよい。
- ・ループリックを他校と一緒に作成する場合、それぞれの気風が異なるために、そろえる必要があるだろう。
- ・個別対応ができる動きがあってもよいと思う。
- ・県のサポートや地域のサポートが必要。
- ・熊本県は大変前向きに取り組んでいる。
- ・事業が展開中の課題なのか、事業にもともと存在する全体の課題なのか。
- ・発表会に地域の方を招待して、その評価をフィードバックする取組は素晴らしい。
- ・地域との連携を学年を超えて引き継ぐことも大事。学校の中での引き継ぎも大事。

### ■令和4年度のまとめ

#### 【遠隔授業】

教育委員会として、「遠隔授業に係る主体的・対話的で深い学びの実現に向けて」というテーマのもと、遠隔授業の推進を図ってきた。

テーマ設定の理由の一つとして、遠隔授業の授業者の特徴が挙げられる。本県では、指導教諭等にも依頼しているが、中堅教諭や、これから教員として活躍が期待できる先生にも依頼し、様々なアイデアや指導法の共有を図り、遠隔授業の推進を図った。また、遠隔授業を行う資質・能力は特定の教員だけができるようにすれば良いという考えではなく、今後の全ての教員に求められる資質・能力の一つとして位置づけたいと考えている。

この考え方については、本県の教育委員会内の組織として、いわゆる学校の整備に関わる部署を主管課としているのではなく、指導に関わる部署が主管課になっている点も挙げられる。遠隔授業を対面授業の代替手段とするのではなく、効果的な学習体験を生む場として活用するという考えのもと、事業の推進を行いたいと考えている。

運営体制について、本県では、電話やクラウドによるデータ共有、授業担当者を対象とした連絡協議会等で授業の実態を把握しながら、体制を整えてきた。8月に授業担当者会、12月に成果発表会をそれぞれ開催し、授業者に研究授業や成果発表をしていただき、参加していただいた全国のCORE事業関係参加者と取組を共有した。

教育課程の共通化については、教育委員会と構成校、そして構成校同士での密な連絡により、日課の調整等を図ってきた。このことについては、第1回運営指導委員会でも課題として挙げられた。年間を通じた各構成校の日課の調整



については、委員の先生から指摘があったように、宿命的なものもあり、現在の体制では調整し続けるしかないという状況がある。このことについては、熊本版COREハイスクール・ネットワークに移行する際の課題として、現在、検討している。今年度は、各構成校の教務主任の先生方や教頭先生等の尽力で、調整を続けてきた。同時に、遠隔授業の規定の一つである、配信校と受信校を合わせて40人以下という制限があるために、実施できる授業にも制限があり、生徒が40人を超えて希望するような状況がある場合には、構成校同士での調整も必要であるという課題も表出した。

受信校で授業に立ち会う者の資質や役割について、現在、受信側に立ち会う者が必要である、という規定がある。そもそも受信校は地方にあり、教員の数が少ないため、その状況で立ち会う者が必要であるならば、授業における費用対効果は良くないこともある、との意見もあった。そこで、成果発表会において、実際に立ち合ってきた教諭に成果と課題をまとめていただいた。課題はあるものの、教科指導や担任の指導に紐づけることで、役割に意義を持たせるといふ工夫があるのではないか、という見解をいただいた。

遠隔授業における生徒の評価や変容については、生徒の評価は高かった。授業外でも、自校の生徒だけではなく、他校の生徒との交流も生まれ、学校間を超えた新しい授業の形が創出できたと考えている。授業が始まる前の遠隔機器を通じた生徒同士の挨拶やPanasonic製HDコムとChromebookを併用した2校間での班活動等は、CORE事業以外でも転用できる手法だと感じている。

遠隔授業には、今後の課題もあるが、関わっていただいた先生方の尽力によって、一定の成果をあげていると捉えている。

### 【コンソーシアムの活用】

教育委員会として、「クラウドを活用した研究過程の比較・共有による探究的な学びの深化について」というテーマのもと、探究的な学びの推進を図ってきた。コンソーシアムについては、各学校の学校運営協議会を活用しており、CORE事業に係る活用は、それぞれのコンソーシアムを活用した探究活動を繋げることを主眼として取り組んだ。その最たる取り組みが、「くまモンプロジェクト」である。

コンソーシアムの体制については、地域への貢献及び生徒の「生きる力」の育成を目的として、地域課題解決に向けた探究的な学びを展開した。10月の生徒中間発表会では、生徒からの学校間を超えた質疑応答、そして、提案等もなされ、当初の予想を超えた動きを見ることができた。2月17日には、今年度の成果発表会を実施し、中間発表会を超える熱意ある発表がなされた。

コンソーシアムを通じた教育課程内の取組と教育課程外の取組については、すでに各学校の「総合的な探究の時間」等で取り組んでいる教育課程内で研究している内容を、教育課程外の「くまモンプロジェクト」で共有する形で実施した。遠隔授業と同様に、担当者をつなげた Classroom と生徒同士をつなげた Classroom を活用し、研究の比較・共有を行なった。特に、各学校同士でアンケート等を取り合い、その結果を自校の取組に生かす形で探究的な学びが行われたところは、運営指導委員の先生からのご意見もあったが、特徴的な点として捉えている。

この取組に対する成果と課題については、生徒の動きや先生方や学校の支援について、成果発表会で関係校の先生方に発表していただいた。

## 5. 次年度に向けた計画概要

### 5.1. 明らかにしたい事項

【遠隔授業】最終年度の計画		実証地域名：熊本県				
教育委員会として明らかにしたいこと・調査研究テーマ		熊本版COREハイスクール・ネットワークにおける遠隔授業の自主化に向けて				
	遠隔授業を行う運営体制	教育課程の共通化	遠隔授業に必要なICT環境	授業づくり・生徒の見取り・評価	受信校で授業に立ち会う者の資質や役割	遠隔授業を受けた生徒の評価や変容
今後さらに検証が必要なこと	・遠隔授業を特定の教員だけが実施するものとするのではなく、今後の教員に求められる資質・能力の一つとして位置付けること。	・配信校、受信校を含めて、遠隔授業を受ける生徒人数が最大40名という制限への対応。 ・構成校の日課の調整。	・専用機器であるPanasonic製HDCコムと1人1台端末として活用しているGoogle chromeの活用差異化。	・遠隔授業のノウハウを共有する場を増やし、授業づくりや生徒の見取り方法、評価方法について協議する機会を実施初年度以上に設定すること。	・受信校側で授業を支援する教員の配置により、通常の日課に加えた業務負担を改善すること、また、資質や役割について更に協議すること。	・遠隔授業を受けた生徒の成績等の推移や授業者、立ち会い者、生徒本人による授業評価。
検証が必要な理由	・遠隔授業を行うにあたり、本県の主管課である高校教育課と教員の人事を担出する学校人事課等の関係課との連携を図り、遠隔授業を実施できる教員の拡充を模索するため。	・遠隔授業の科目数増加や今後の構成校増加を模索した場合、科目が選択授業に限定されたり、希望する生徒の受講が叶わないことが想定されるため。 ・実施初年度から、各構成校の日課が異なるため、年間を通じた調整が必要であることが明らかにされたため。	・遠隔授業の科目数増加や構成校増加を考えた場合、予算の関係上、HDCコムを増設することは難しく、Google chromeを活用することが考えられるため。また、一斉指導と1人1台端末による個別指導との活用場面に応じた機器の併用を模索するため。	・COREハイスクール・ネットワーク構想事業に関わらず、遠隔授業を実施する機会は、今後の教育環境において増加することが考えられるため、全ての教員が身につける資質・能力の一つであると捉えているため。	・受信側の学校は、小規模校であることが多いため、そもそも授業に立ち会う者を設定することが難しいため。また、立ち会う者が異なる科目の教員である場合、支援が難しく、同じ教科であれば、そもそも遠隔授業を行う理由が割出できないことが考えられるため。	・実施初年度は、各遠隔授業の成立を中心に実施したため、最終年度においては教員による検証や授業者、立ち会い者、生徒本人による授業評価を客観的に実施する必要があると捉えているため。
明らかにする手立て・調査方法	・教育委員会内の連携調整及び体制構築。年度当初に実施している校長連絡等で聴き取った各学校の状況集約。	・連絡協議会、運営指導委員会、構成校の管理職や担当者との密な連携。	・連絡協議会、運営指導委員会、構成校の管理職や担当者との密な連携。	・授業担当者会の定期開催及びOOや授業担当者による研修実施。	・連絡協議会、運営指導委員会、授業担当者会による協議、及び文部科学省や内田洋行主催による会議。	・文部科学省及び内田洋行によるアンケート及び県教育委員会、構成校によるアンケートや聴き取り調査。
本事業の成果を踏まえた展開方法	熊本版COREハイスクール・ネットワークの構築を図り、事業終了後も取組を継続し、持続可能な地方創生の核としての高等学校の機能強化を目指す。					3

【コンソーシアム】最終年度の計画 実証地域名：熊本県

教育委員会として明らかにしたいこと・調査研究テーマ		熊本版COREハイスクール・ネットワークにおけるコンソーシアムの連携強化に向けて				
	コンソーシアムの体制	コンソーシアムの運営	コンソーシアムを基とした教育課程内の取組	コンソーシアムを基とした教育課程外の取組	持続化のための資源連携	担当事業者である都道府県教委の役割
今後さらに検証が必要なこと	・本県4つの地域のコンソーシアムの活用を促進し、各校のコンソーシアムだけでなく、他校のコンソーシアムも活用し、各構成校の調査や研究に用いること。	・引き続き、各地域でコンソーシアムとの密接な連携を図ること、及び他地域の活動内容を共有し、自校の地域の活動に活かすこと。	・引き続き、連絡協議会等でコンソーシアム活用の状況を共有し、地域課題解決に向けた探究的な学びを推進すること。	・引き続き、「くまモンプロジェクト」を推進し、熊本県の全県立高校の高校生が探究活動を発表する「熊本スーパーハイスクール(KSH)生徒研究発表会」において、CORE構成校をグループ化した発表を検討すること。	・熊本教育委員会の高校教育課能力推進室の事業である各地域の県立高校連携による「One Teamプロジェクト」や「熊本スーパーハイスクール(KSH)」等で得られる予算をCORE事業に活用すること。	・引き続き、熊本教育委員会の高校教育課能力推進室の担当および高校教育課県立学校教育指導部のコミュニティ・スクール担当との連携を図り、CORE事業での協働を深化すること。
検証が必要な理由	・実施初年度においても、上記の提案を教育委員会より行ったが、生徒同士の調査・研究にとり、コンソーシアム活用の活用まで実施できなかったため。	・各構成校によるコンソーシアム活用の状況については、連絡協議会等で共有しているが、担当者の異動等に関する体制づくりを促進するため。	・地域の課題を解決するに当たり、当該地域の状況を把握するだけでは解決策が見出にくいという課題があるため。	・実施初年度においても、上記の提案を教育委員会より行ったが、各構成校によるそれぞれの発表が検討され、グループ化まで実施できなかったため。	・「くまモンプロジェクト」における探究的な学びをコーディネートする外部人材や活動資金を確保するため。	・実施初年度における情報共有が円滑に進み、それぞれの事業での活用につながったため。
明らかにする手立て・調査方法	・年度当初の連絡協議会等で、各構成校のコンソーシアムの構成や活動内容を共有し、「くまモンプロジェクト」等による他校のコンソーシアムを活用した調査、研究を構築する。	・年度当初の連絡協議会等で、各構成校のコンソーシアムの構成や活動内容を共有し、クラウドを活用して、連携状況を随時共有する。	・クラウド上で随時共有する。生徒の調査、研究過程「くまモンプロジェクト」発表会による生徒の発表。	・年度当初の連絡協議会等で、各構成校の「くまモンプロジェクト」等による他校のコンソーシアムを活用した調査、研究を構築の上、KSH生徒発表会をスケジュールに取り入れる。	・高校教育課と各構成校と連携の上、年度当初の連絡協議会等で共有し、計画する。	・年間を通して、熊本教育委員会の高校教育課能力推進室の担当および高校教育課県立学校教育指導部のコミュニティ・スクール担当者は、CORE事業に係る会議等へ参加する。
本事業の成果を踏まえた展開方法	熊本版COREハイスクール・ネットワークの構築を図り、事業終了後も取組を継続し、持続可能な地方創生の核としての高等学校の機能強化を目指す。					5

5.2. 重点的に取り組む取組

【遠隔授業】

来年度は「発展英語」という科目名で、指導教諭に準備を進めていただき、小国高校への配信準備をしている。また、球磨中央高校の地域探究手法を牛深高校の生徒に配信する「グローバル・スタディーズ」、そして、牛深高校から小国高校への「声楽」の授業配信の準備も進めているところである。初めての取り組みになるため、引き続き、運営指導委員の先生方からのご意見も活かしながら取り組んでいく。

また、令和6年度からの熊本版COREハイスクール・ネットワーク構想における自走化に向けて、運営体制、教育課程共通化のルール対応、遠隔専用機器と生徒用1人1台端末の活用差異化、授業づくりや評価方法の研究や協議、受信校で立ち会う者の資質・能力や業務負担の軽減、生徒への授業評価等を検証していきたい。

【コンソーシアム活用】

コンソーシアムを活用した探究的な学びに関しては、現在、生徒同士の結びつきによる活動は実施できつつあるものの、それぞれのコンソーシアムを活用



した取組までは進んでいない現状がある。そのため、「コンソーシアムの連携強化」をテーマに、可能な限り、自校のコンソーシアムだけではなく、他校が持つコンソーシアムを一部活用した取組を模索している。また、他県との探究的な学びについても検討しているところである。

また、現在、高校教育課魅力化推進室を中心に実施している熊本県の全県立高校の生徒が探究活動を発表する「熊本スーパーハイスクール（KSH）」において、下記のようなCORE構成校をグループ化した発表も検討している。「くまモンプロジェクト」の成果発表を県内全域への参加周知の上、遠隔授業とコンソーシアムを掛け合わせ、学校間を超えた探究活動及び本事業の推進に繋げていく予定である。

【遠隔授業×コンソーシアム】 実証地域名：熊本県

コンソーシアム(地域協働)と遠隔授業(ICTの活用・配信校や受信校等とのつながり等を含む)を組合せた高等学校の機能強化を図る取り組み	
具体的な取組とその成果	<p>■くまモンプロジェクトの実施</p> <p>①地域への貢献及び生徒の「生きる力」の育成を目的として、②熊本県下の4つの地域(熊本(第一高校)、阿蘇(国高校)、天草(牛深高校)、人吉阿蘇(球磨中央高校))の生徒が、③学校や地域の枠を超えて一体となり、④地域課題解決に向けた探究的な学びを展開するプロジェクト。</p> <p>○目的達成のために</p> <p>①地域への貢献 ②生徒の「生きる力」の育成のために、*熊本(第一)・阿蘇(国)・天草(牛深)・人吉阿蘇(球磨中央)が、→①「地域への貢献」、②生徒の「生きる力」の育成のために、ゴール地点の目標合わせをする。</p> <p>→他校、地域と連携した共同調査、意見交換、活用発表会の活用方法を構築する。</p> <p>○手法</p> <p>①-探究的な手法-過程-成果の共有、→クワッド活用 →遠隔でグループ構築し、共同研究、*授業レポートの共同作成、*指導と評価の計画の一部共有化。</p> <p>②-コンソーシアムとの連携</p> <p>→自分が住む地域課題解決の研究のために、他地域のコンソーシアム活用、(探究的な学びの成果をコンソーシアム内で発表等)</p> <p>○成果発表会実施</p> <p>10月に生徒中間発表会、2月に生徒成果発表会を実施。</p> <p>■くまもと夢への架け橋ネットワーク構築成果発表会の実施</p> <p>北関校や成果発表等を通じて、今後の高等学校教育における遠隔教育や探究的な学びの取組の推進の充実を図ることを目的とし、12月に実施した。</p> <p>○公開授業</p> <p>①配信)球磨中央高等学校 受信)中国高校「マーケティング」</p> <p>②配信)第一高等学校 受信)中国高校「数学Ⅱ」</p> <p>○成果発表会</p> <p>①くまもと夢への架け橋ネットワーク構築)事業 結果説明</p> <p>②遠隔授業機種の説明</p> <p>③遠隔授業について(講師校の教員による発表)</p> <p>④探究的な学びについて(講師校の生徒による発表)</p> <p>⑤探究的な学びについて(講師校の教員による発表)</p> <p>⑥指導計画・評価</p>
今後の計画	<p>■くまモンプロジェクトの改善を加えた実施</p> <p>*各地域のコンソーシアムを活用した調査、研究の推進。</p> <p>*クワッドを活用し、各構成校の生徒による同テーマによる共同研究。</p> <p>*各構成校の指導と評価の一部共有化の促進。</p> <p>*調査、研究を行う際のフォームの一部共有化。</p> <p>*成果発表会の県内全域への参加周知。</p> <p>■くまもと夢への架け橋ネットワーク構築成果発表会の改善を加えた実施</p> <p>*公開授業の科目増加</p> <p>*授業者との協議及び質疑応答の時間確保。</p> <p>*探究的な学びの担当者との協議及び質疑応答の時間確保。</p> <p>*成果発表会で得た知見を踏まえた令和6年度からの「熊本県CORE事業」の検討。</p> <p>*熊本県の全県立高校の高校生が探究活動を発表する「熊本スーパーハイスクール(KSH)生徒研究発表会」との連携。</p>



### 5.3. 実施体制

基本的に2.2.実施体制及び3.2.実施体制と同様である。

ただし、コンソーシアム活用に関して高校教育課魅力化推進室との連携を図り、教職員の兼務申請等に係る業務において学校人事課との連携を図る。

#### ■国指定事業終了後の遠隔授業のあり方の検討

R5年度で3年間の国の指定期間が終了する。3年間の知見を活かし、小規模校における多様な教育課程の編成、専門教員の配置、魅力化、地域間格差の是正など、県立高校が抱える課題の克服の一助となるよう、様々な観点からあり方を検討する必要がある。

また、今後の遠隔授業のあり方を考える際に、配信拠点の整備の検討は欠かせない。配信センターの設置を含め、人的、物的な課題について検討する必要がある。

R3	R4
<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠隔授業の準備、試行（連絡協議会の実施等）</li> <li>・コンソーシアムの立ち上げ</li> </ul>	遠隔授業の本格実施 （単位認定も可能な授業等を含む）
	県内を一体化した地域課題解決に向けた探究な学び実施

R5											
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
遠隔授業の本格実施（単位認定も可能な授業等を含む） 【熊本版COREハイスクール構想準備期間】											
県内を一体化した地域課題解決に向けた探究な学び実施 【熊本版COREハイスクール構想準備期間】											

R6	R6年度末 到達イメージ
熊本版COREハイスクールの開始（自走）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県立高校において遠隔授業が定着</li> <li>・コンソーシアムを核とした地域課題解決のための探究活動の深まり</li> </ul>

## 6. 資料集

### ・令和4年度実施 遠隔授業を行う教科・科目に関する資料

受信校名	小国高等学校		学科	普通科
教科	数学	開設学年		3年生
科目	数学B	遠隔授業開始年度		令和4年度
配信校名	第一高等学校	配信教室の生徒の有無		有
実施理由	習熟度別指導の実施			
単位数	2	必修・選択の別		必修
遠隔授業により期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 難関大学志望者の育成</li> <li>・ 学校を超えた切磋琢磨する環境作り</li> </ul>			

受信校名	小国高等学校		学科	普通科
教科	数学	開設学年		3年生
科目	実践文系数学	遠隔授業開始年度		令和4年度
配信校名	第一高等学校	配信教室の生徒の有無		有
実施理由	習熟度別指導の実施			
単位数	3	必修・選択の別		必修
遠隔授業により期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 難関大学志望者の育成</li> <li>・ 学校を超えた切磋琢磨する環境作り</li> </ul>			

受信校名	小国高等学校		学科	普通科
教科	商業	開設学年		3年生
科目	マーケティング	遠隔授業開始年度		令和4年度
配信校名	球磨中央高等学校	配信教室の生徒の有無		有
実施理由	多様な教科・科目の開設			
単位数	2	必修・選択の別		選択
遠隔授業により期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幅広い教養を身につけた生徒の育成及び生徒の選択の幅の広がり。</li> <li>・ 市場環境の変化や消費者行動、市場調査の方法や情報の分析力の向上</li> <li>・ 製品企画や生産計画、販売計画と販売予測など製品政策分析力の向上。</li> <li>・ 価格政策の概要や価格の種類と決定方法など価格政策の動向。</li> <li>・ セールスポモーション政策や販売員活動などの効果測定力の向上。</li> </ul>			

受信校名	牛深高等学校	学科	総合学科
教科	地理歴史	開設学年	2, 3年次
科目	地理A	遠隔授業開始年度	令和4年度
配信校名	第一高等学校	配信教室の生徒の有無	有
実施理由	多様な教科・科目の開設		
単位数	2	必修・選択の別	選択
遠隔授業により期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門教師の指導による、より高い指導力の向上</li> <li>・ 教科指導力の向上</li> <li>・ 学校を超えた切磋琢磨する環境作り</li> </ul>		

受信校名	球磨中央高等学校	学科	普通科
教科	英語	開設学年	2, 3年生
科目	異文化理解	遠隔授業開始年度	令和4年度
配信校名	県立教育センター (指導教諭(スーパーティーチャー)による配信を予定)	配信教室の生徒の有無	無
実施理由	多様な教科・科目の開設		
単位数	2	必修・選択の別	必修
遠隔授業により期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門教師による専門性の向上及びスーパーティーチャーの活用による学力向上に繋がる。</li> <li>・ 習熟度別指導により、英語が得意な生徒向けの授業展開と英語が苦手な生徒へのきめ細やかな学習支援が可能である。</li> <li>・ プレゼンテーションによる意見発表など、専門的な知見から、ダイレクトに助言・アドバイス等を受けることができる。</li> </ul>		

・令和5年度実施計画書（抜粋）

COREハイスクール・ネットワーク構想事業 目標設定シート

管理機関	熊本県教育委員会
------	----------

1. 本構想において、実現する成果目標の設定（アウトカム）

(1) 学びの基礎診断等により把握する生徒の学力の定着・向上の状況

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
目標値		57%	61%	65%
実績値	52.9%	55.1%	53.9%	
把握のための測定方法及び指標	第3期熊本県教育振興基本計画の数値目標に基づき、学力が向上した生徒の割合（単位：％）で算出した（「学びの基礎診断」認定ツールの結果に基づき算出）。今後も継続的に活用し、学びのPDCAサイクルの確立と学力向上に向けた取組を支援する。			

(2) 地域課題の解決等の探究的な学びに関する科目等の数（総合的な探究の時間を含む。）

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
目標値		0	5	7
実績値	0	2	5	

（参考）上記のうち、学校設定科目の数

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
目標値		0	1	2
実績値	0	1	1	

(3) 免許外教科担任制度の活用件数

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
目標値		0	0	0
実績値	0	0	0	
構成校の数				

(4) その他、管理機関が設定した成果目標

成果目標①：県立高校のコンソーシアムの設置校数

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
目標値		7	10	20
実績値	4	8	8	
目標設定の考え方	地方部の高校を中心にコンソーシアムの設置を進め、地域と協働した体制づくりを推進する。			



成果目標②：C I Oによる成果発表会に参加した高校の数（管理機関等含む）

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
目標値		20	50	50
実績値	0	0	15	
目標設定の考え方	各県立高校が成果発表会に参加することにより、遠隔授業への理解を深め、普及を図る。			

2. COREハイスクール・ネットワークとしての活動指標（アウトプット）

（1）COREネットワークの構成校における遠隔授業の実施科目数

	2年度	3年度	4年度	5年度
実績	0	0	5	
見込み		0	5	16

（2）地元自治体等の関係機関とコンソーシアムを構築している学校数

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
実績	0	4	4	
見込み		4	4	4

（3）その他、管理機関が設定した活動指標

活動指標①：コンソーシアム委員会の1校当たりの年間開催回数

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
実績	0	2	2	
見込み		4	5	5
活動指標の考え方	概ね2ヶ月に1回の開催を目指す。			

活動指標②：C I Oによる遠隔授業研修会を受講した高校の数

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
実績	0	0	0	
見込み		50	50	50
活動指標の考え方	各県立高校が研修会に参加することにより、遠隔授業への理解を深め、普及を図る。			

## CORE ネットワークを構成する高等学校等に関する資料

管理機関名	熊本県教育委員会	
CORE ネットワークの名称	くまもと夢への架け橋ネットワーク構想	
学校名 (所在市町村)	熊本県立第一高等学校 (熊本県熊本市)	
最も近い高等学校名 (直線距離)	熊本県立湧心館高等学校	直線距離約 ( 1. 4 ) km
主として配信校となる高等学校との距離		直線距離約 ( 0 ) km

### 1. CORE ネットワークの構成校に選定した理由

<p>学年9クラスを有し、1000名を超える生徒が在籍する大規模校である。普通科、普通科英語コースを設置している。開設科目数も多い。</p> <p>ほとんどの生徒が大学をはじめとした上級学校への進学を希望している。そのため、日頃の授業も上級学校への進学を視野に入れたものであり、学校全体に蓄積されている進学指導に関するノウハウを県全体に普及し、本県の学力向上につなげたいと考え、選定した。</p>
--

### 2. 遠隔授業に必要な機器 (1校あたり)

機器等の種類	個数	整備状況		
		委託費により整備	設置者等負担	
			整備予定	整備済
遠隔会議システム	1	○		
マイク	1	○		
カメラ	1	○		
大型提示装置 (65インチ)	2	○		○
什器 (HDMI ケーブル補償器、ディスプレイスタンド、スベア棚板)	1	○		
オーディオケーブル	1	○		
HDMI ケーブル 5 m	1	○		
HDMI ケーブル 10 m	1	○		

### 3. 遠隔授業システムを常設する教室の数 (整備予定の教室を含む。)

遠隔授業システムを常設する教室数	1 教室
------------------	------

### 4. 令和5年度に遠隔授業で開設する科目数等 (受信校のみ)

遠隔授業を実施する予定の合計科目数	科目
遠隔授業で実施する科目の合計単位数	単位

※別紙様式1別添6-2参照

## CORE ネットワークを構成する高等学校等に関する資料

管理機関名	熊本県教育委員会		
CORE ネットワークの名称	くまもと夢への架け橋ネットワーク構想		
学校名 (所在市町村)	熊本県立小国高等学校 (熊本県阿蘇郡小国町)		
最も近い高等学校名 (直線距離)	熊本県立阿蘇中央高等学校		直線距離約 (24) km
主として配信校となる高等学校との距離	直線距離約 (47) km		

### 1. CORE ネットワークの構成校に選定した理由

<p>阿蘇地方に位置し、大分県に隣接している。連携型の中高一貫校である。地域唯一の高等学校であり、地域と協働した教育活動が展開されている。生徒数が少ないため、開設教科、科目も限られている。このため、多様な学びを求めて熊本市内等の大規模校への進学を目指す者もある。国立大学を目指す生徒の育成や、多様な学びが可能となることにより、高校の活性化がより進むのではないかと考え、構成校に選定した。</p>
---

### 2. 遠隔授業に必要な機器 (1校あたり)

機器等の種類	個数	整備状況		
		委託費により 整備	設置者等負担	
			整備 予定	整備済
遠隔会議システム	1	○		
マイク	1	○		
カメラ	1	○		
大型提示装置 (65インチ)	2	○		○
什器 (HDMI ケーブル補償器、ディスプレイスタンド、スベア棚板)	1	○		
オーディオケーブル	1	○		
HDMI ケーブル 5m	1	○		
HDMI ケーブル 10m	1	○		

### 3. 遠隔授業システムを常設する教室の数 (整備予定の教室を含む。)

遠隔授業システムを常設する教室数	1 教室
------------------	------

### 4. 令和5年度に遠隔授業で開設する科目数等 (受信校のみ)

遠隔授業を実施する予定の合計科目数	5 科目
遠隔授業で実施する科目の合計単位数	11 単位

## CORE ネットワークを構成する高等学校等に関する資料

管理機関名	熊本県教育委員会	
CORE ネットワークの名称	くまもと夢への架け橋ネットワーク構想	
学校名 (所在市町村)	熊本県立牛深高等学校	(熊本県天草市)
最も近い高等学校名 (直線距離)	熊本県立天草工業高等学校	直線距離約 (40) km
主として配信校となる高等学校との距離		直線距離約 (125) km

### 1. CORE ネットワークの構成校に選定した理由

本県立高校の中で、熊本市内から最も遠隔地にある高等学校である。高校再編整備により、旧牛深高校と河浦高校を統合し発足した。総合学科の高校として、地域の生徒の多様なニーズに、地域の学校として応えられるよう多様な科目が開設されている。しかしながら、生徒数の減少や、職員数の問題等から、履修の制約が生じたり、専門外の教師による指導等が課題となっている。地域の学校における多様な教科の開設の在り方を研究する目的で、構成校に選定した。

### 2. 遠隔授業に必要な機器 (1校あたり)

機器等の種類	個数	整備状況		
		委託費により 整備	設置者等負担	
			整備 予定	整備済
遠隔会議システム	1	○		
マイク	1	○		
カメラ	1	○		
大型提示装置 (65インチ)	2	○		○
什器 (HDMI ケーブル補償器、ディスプレイスタンド、スベア棚板)	1	○		
オーディオケーブル	1	○		
HDMI ケーブル 5m	1	○		
HDMI ケーブル 10m	1	○		

### 3. 遠隔授業システムを常設する教室の数 (整備予定の教室を含む。)

遠隔授業システムを常設する教室数	1 教室
------------------	------

### 4. 令和5年度に遠隔授業で開設する科目数等 (受信校のみ)

遠隔授業を実施する予定の合計科目数	1 科目
遠隔授業で実施する科目の合計単位数	1 単位



## CORE ネットワークを構成する高等学校等に関する資料

管理機関名	熊本県教育委員会	
CORE ネットワークの名称	くまもと夢への架け橋ネットワーク構想	
学校名 (所在市町村)	熊本県立球磨中央高等学校	(熊本県球磨郡錦町)
最も近い高等学校名 (直線距離)	熊本県立人吉高等学校	直線距離約 (5.6) km
主として配信校となる高等学校との距離		直線距離約 (9.1) km

### 1. CORE ネットワークの構成校に選定した理由

人吉球磨地区の高校再編整備によって発足した。普通科としての「地域未来探究科」が設置され、全校生徒を対象とした「球磨地域学」や公民科の学校設定科目である「GLS (グローバル・ステージ)」等、地域と連携した特色ある学びを行っている。また、商業科、情報処理科ではビジネスの専門知識や技術の修得、各種検定資格を取得し、日本経済や地域社会に貢献する人材を多数輩出している。今後、探究科目で学んだ生徒が、幅広い進路を目指すための多様な科目が求められる。地域の総合高校として、進学対応を目的とした遠隔科目開設の調査研究を行いたいと考え、構成校に選定した。また、人吉球磨地方は、令和2年7月の豪雨災害からの復興が喫緊の課題であり、地域の創造的復興を牽引する人材の育成が急務であることも選定理由の一つである。

### 2. 遠隔授業に必要な機器 (1校あたり)

機器等の種類	個数	整備状況		
		委託費 により 整備	設置者等負担	
			整備 予定	整備済
遠隔会議システム	1	○		
マイク	1	○		
カメラ	1	○		
大型提示装置 (65インチ)	2	○		○
什器 (HDMI ケーブル補償器、ディスプレイスタンド、スベア棚板)	1	○		
オーディオケーブル	1	○		
HDMI ケーブル 5m	1	○		
HDMI ケーブル 10m	1	○		

### 3. 遠隔授業システムを常設する教室の数 (整備予定の教室を含む。)

遠隔授業システムを常設する教室数	1 教室
------------------	------

### 4. 令和5年度に遠隔授業で開設する科目数等 (受信校のみ)

遠隔授業を実施する予定の合計科目数	1 科目
遠隔授業で実施する科目の合計単位数	1 単位

## COREネットワークを構成する高等学校等に関する資料

管理機関名	熊本県教育委員会		
COREネットワークの名称	くまもと夢への架け橋ネットワーク構想		
学校名 (所在市町村)	熊本県立教育センター (熊本県山鹿市)		
最も近い高等学校名 (直線距離)	熊本県立鹿本高等学校		直線距離約 ( 5. 6 ) km
主として配信校となる高等学校との距離	直線距離約 ( 0 ) km		

### 1. COREネットワークの構成校に選定した理由

熊本県における教育の充実及び振興を図るための研修、調査研究の拠点として、本事業構成校に対する指導助言を行う。また、その成果の普及を行う。

さらに、遠隔授業の配信拠点の一つとして、主として指導教諭（スーパーティーチャー）の授業の配信を行い、生徒への教科指導と、教職員の指導力向上に寄与するために選定した。

### 2. 遠隔授業に必要な機器（1校あたり）

機器等の種類	個数	整備状況		
		委託費 により 整備	設置者等負担	
			整備 予定	整備済
遠隔会議システム	1	○		
マイク	1	○		
カメラ	1	○		
大型提示装置（65インチ）	2	○		○
什器（HDMIケーブル補償器、ディスプレイスタンド、スベア棚板）	1	○		
オーディオケーブル	1	○		
HDMIケーブル5m	1	○		
HDMIケーブル10m	1	○		

3. 遠隔授業システムを常設する教室の数（整備予定の教室を含む。）

遠隔授業システムを常設する教室数	1 教室
------------------	------

4. 令和5年度に遠隔授業で開設する科目数等（受信校のみ）

遠隔授業を実施する予定の合計科目数		科目
遠隔授業で実施する科目の合計単位数		単位

遠隔授業を行う教科・科目に関する資料（令和5年度分）

受信校名	小国高等学校		課程	全日制
			学科	普通科
教科	数学	開設学年		3年生
科目	数学B	遠隔授業開始年度		令和4年度
配信校名	第一高等学校			配信教室の生徒の有無 有
同時に受信する学校（学年）	( 年)		( 年)	
	( 年)		( 年)	
遠隔授業で実施する主な理由	<input type="checkbox"/>	多様な教科・科目の開設		
	<input type="checkbox"/>	習熟度別指導の実施		
	<input type="checkbox"/>	免許外教科担任制度の解消		
	<input type="checkbox"/>	その他（理由を記入）		
単位数	2	必修・選択の別		選択
遠隔授業により期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 難関大学志望者の育成</li> <li>・ 学校を超えた切磋琢磨する環境作り</li> </ul>			
受信教室	<input type="checkbox"/>	遠隔授業システムが常設されている教室		
	<input type="checkbox"/>	遠隔授業を実施する時間のみ機器を搬入する教室		
授業回数	70	年間の授業回数（授業1回当たり50分換算とする。以下同じ。）		
	65	遠隔による授業回数		
	5	対面による授業回数（年間授業回数－遠隔による授業回数）		
受信教室に配置される者	教員		教員以外の職員	
	教諭等		職名：	
教員以外の職員の配置により期待される効果				



遠隔授業を行う教科・科目に関する資料（令和5年度分）

受信校名	小国高等学校		課程	全日制
			学科	普通科
教科	数学	開設学年		3年生
科目	実践文系数学	遠隔授業開始年度		令和4年度
配信校名	第一高等学校			配信教室の生徒の有無 有
同時に受信する学校（学年）	( 年)		( 年)	
	( 年)		( 年)	
遠隔授業で実施する主な理由	<input type="checkbox"/>	多様な教科・科目の開設		
	<input type="checkbox"/>	習熟度別指導の実施		
	<input type="checkbox"/>	免許外教科担任制度の解消		
	<input type="checkbox"/>	その他（理由を記入）		
単位数	3	必修・選択の別		選択
遠隔授業により期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 難関大学志望者の育成</li> <li>・ 学校を超えた切磋琢磨する環境作り</li> </ul>			
受信教室	<input type="checkbox"/>	遠隔授業システムが常設されている教室		
	<input type="checkbox"/>	遠隔授業を実施する時間のみ機器を搬入する教室		
授業回数	105	年間の授業回数（授業1回当たり50分換算とする。以下同じ。）		
	100	遠隔による授業回数		
	5	対面による授業回数（年間授業回数－遠隔による授業回数）		
受信教室に配置される者	教員		教員以外の職員	
	教諭等		職名：	
教員以外の職員の配置により期待される効果				

遠隔授業を行う教科・科目に関する資料（令和5年度分）

受信校名	小国高等学校		課程	全日制
			学科	普通科
教科	商業	開設学年		3年生
科目	マーケティング	遠隔授業開始年度		令和4年度
配信校名	球磨中央高等学校			配信教室の生徒の有無 有
同時に受信する学校（学年）	( 年)		( 年)	
	( 年)		( 年)	
遠隔授業で実施する主な理由	多様な教科・科目の開設			
	習熟度別指導の実施			
	○	免許外教科担任制度の解消		
	その他（理由を記入）			
単位数	2	必修・選択の別		選択
遠隔授業により期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>幅広い教養を身につけた生徒の育成及び生徒の選択の幅の広がり。</li> <li>市場環境の変化や消費者行動、市場調査の方法や情報の分析力の向上。</li> <li>製品企画や生産計画、販売計画と販売予測など製品政策の動向分析力の向上。</li> <li>価格政策の概要や価格の種類と決定方法など価格政策の動向分析力の向上。</li> <li>セールスプロモーション政策や販売員活動などの効果測定力の向上。</li> </ul>			
受信教室	○	遠隔授業システムが常設されている教室		
		遠隔授業を実施する時間のみ機器を搬入する教室		
授業回数	70	年間の授業回数（授業1回当たり50分換算とする。以下同じ。）		
	65	遠隔による授業回数		
	5	対面による授業回数（年間授業回数－遠隔による授業回数）		
受信教室に配置される者	教員		教員以外の職員	
	教諭等		職名：	
教員以外の職員の配置により期待される効果				

遠隔授業を行う教科・科目に関する資料（令和5年度分）

受信校名	小国高等学校		課程	全日制
			学科	普通科
教科	外国語	開設学年		3年生
科目	発展英語	遠隔授業開始年度		令和5年度
配信校名	調整中 (指導教諭(スーパーティーチャー)による配信を予定)			配信教室の 生徒の有無
同時に受信する 学校(学年)	( 年)		( 年)	
	( 年)		( 年)	
遠隔授業で実施 する主な理由		多様な教科・科目の開設		
	○	習熟度別指導の実施		
		免許外教科担任制度の解消		
		その他(理由を記入)		
単位数	2	必修・選択の別		選択
遠隔授業により 期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 難関大学志望者の育成</li> <li>・ 生徒が切磋琢磨する環境づくり</li> <li>・ 教員の指導力向上</li> </ul>			
受信教室		遠隔授業システムが常設されている教室		
	○	遠隔授業を実施する時間のみ機器を搬入する教室		
授業回数	70	年間の授業回数(授業1回当たり50分換算とする。以下同じ。)		
	65	遠隔による授業回数		
	5	対面による授業回数(年間授業回数-遠隔による授業回数)		
受信教室に配置 される者	教員		教員以外の職員	
	教諭等		職名:	
教員以外の職員 の配置により期 待される効果				

遠隔授業を行う教科・科目に関する資料（令和5年度分）

受信校名	小国高等学校		課程	全日制
			学科	普通科
教科	音楽	開設学年		3年生
科目	声楽	遠隔授業開始年度		令和5年度
配信校名	牛深高等学校			配信教室の生徒の有無
同時に受信する学校（学年）			( 年)	( 年)
			( 年)	( 年)
遠隔授業で実施する主な理由	<input type="checkbox"/>	多様な教科・科目の開設		
	<input type="checkbox"/>	習熟度別指導の実施		
	<input type="checkbox"/>	免許外教科担任制度の解消		
	<input type="checkbox"/>	その他（理由を記入） 専門性の高い指導の実施		
単位数	2	必修・選択の別		選択
遠隔授業により期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の興味関心の伸長</li> <li>・学校を超えた切磋琢磨する環境作り</li> <li>・実技科目における遠隔教育の研究</li> </ul>			
受信教室	<input type="checkbox"/>	遠隔授業システムが常設されている教室		
	<input type="checkbox"/>	遠隔授業を実施する時間のみ機器を搬入する教室		
授業回数	70	年間の授業回数（授業1回当たり50分換算とする。以下同じ。）		
	65	遠隔による授業回数		
	5	対面による授業回数（年間授業回数－遠隔による授業回数）		
受信教室に配置される者	教員		教員以外の職員	
	教諭等		職名：	
教員以外の職員の配置により期待される効果				



遠隔授業を行う教科・科目に関する資料（令和5年度分）

受信校名	牛深高等学校		課程	全日制
			学科	普通科
教科	公民	開設学年		3年生
科目	グローバル・スタディーズ	遠隔授業開始年度		令和5年度
配信校名	球磨中央高等学校			配信教室の生徒の有無 有
同時に受信する学校（学年）	( 年)		( 年)	
	( 年)		( 年)	
遠隔授業で実施する主な理由	<input type="radio"/>	多様な教科・科目の開設		
	<input type="radio"/>	習熟度別指導の実施		
	<input type="radio"/>	免許外教科担任制度の解消		
	<input type="radio"/>	その他（理由を記入）		
単位数	1	必修・選択の別		選択
遠隔授業により期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域理解科目の研究開発の深化及び地域人材の育成。</li> <li>・ グローバル化や少子高齢化、社会の激しい変化の中で、地域が抱える課題の解決策の考察。</li> <li>・ 地域活性化や地域社会を維持・存続させる手掛かりの考察。</li> <li>・ 地球規模で解決が求められている国際社会の取り組みを学び、幅広いものの見方や考え方による問題解決能力の向上。</li> </ul>			
受信教室	<input type="radio"/>	遠隔授業システムが常設されている教室		
	<input type="radio"/>	遠隔授業を実施する時間のみ機器を搬入する教室		
授業回数	35	年間の授業回数（授業1回当たり50分換算とする。以下同じ。）		
	30	遠隔による授業回数		
	5	対面による授業回数（年間授業回数－遠隔による授業回数）		
受信教室に配置される者	教員		教員以外の職員	
	教諭等		職名：	
教員以外の職員の配置により期待される効果				

遠隔授業を行う教科・科目に関する資料（令和5年度分）

受信校名	球磨中央高等学校		課程	全日制
			学科	普通科
教科	外国語	開設学年		3年生
科目	異文化理解	遠隔授業開始年度		令和4年度
配信校名	県立教育センター (指導教諭(スーパーティーチャー)による配信を予定)			配信教室の 生徒の有無
同時に受信する 学校(学年)	( 年)		( 年)	
	( 年)		( 年)	
遠隔授業で実施 する主な理由	<input type="radio"/>	多様な教科・科目の開設		
	<input type="radio"/>	習熟度別指導の実施		
	<input type="radio"/>	免許外教科担任制度の解消		
	<input type="radio"/>	その他(理由を記入)		
単位数	1	必修・選択の別		必修
遠隔授業により 期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門教師による専門性の向上及びスーパーティーチャーの活用による学力向上に繋がる。</li> <li>・習熟度別指導により、英語が得意な生徒向けの授業展開と英語が苦手な生徒へのきめ細やかな学習支援が可能である。</li> <li>・プレゼンテーションによる意見発表など、専門的な知見から、ダイレクトに助言・アドバイス等を受けることができる。</li> </ul>			
受信教室	<input type="radio"/>	遠隔授業システムが常設されている教室		
	<input type="radio"/>	遠隔授業を実施する時間のみ機器を搬入する教室		
授業回数	35	年間の授業回数(授業1回当たり50分換算とする。以下同じ。)		
	30	遠隔による授業回数		
	5	対面による授業回数(年間授業回数-遠隔による授業回数)		
受信教室に配置 される者	教員		教員以外の職員	
	教諭等		職名:	
教員以外の職員 の配置により期 待される効果				

令和4年度指定

地域社会に根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワーク構築事業  
(COREハイスクール・ネットワーク構想)  
研究開発実施報告書(2年次)

令和5年3月発行

**発行者** 熊本県教育庁県立学校教育局高校教育課

住所 〒862-8609 熊本県熊本市中央区水前寺六丁目18番1号

電話 096-333-2685 FAX 096-384-1563

**印刷所** 有限会社あすなろ印刷

住所 〒860-0821 熊本県熊本市中央区本山3-3-1-408

電話 096-335-8880 FAX 096-335-8881

